

正しく塗って、しっかり効く！

アース製薬では、世界中の全ての人の健康を願い、虫が媒介する感染症予防のために、虫よけ剤の正しい使い方を知っていただく活動に力を入れています。

**虫よけ剤の正しい使い方**

① 腕、足など露出部分に約15cm離してから噴霧する。

② 塗りムラのないように伸ばして塗り広げる。

③ 顔、首筋には手のひらに噴霧してから、ムラができないように塗る。  
※汗で流れるので適宜塗り直す

**塗りムラなくしっかり塗ることが大事!**

ディート(有効成分) 肌

塗りムラがないとき  
成分で肌が覆われているため虫が肌を感知できない

ディート(有効成分) 肌

塗りムラがあるとき  
成分が覆われていないすき間を虫に狙われる

## アース製薬株式会社

〒101-0048  
東京都千代田区神田司町2-12-1  
TEL 03-5207-7788  
URL : <https://corp.earth.jp/jp/csr/index.html>

2020年10月発行

## アース製薬株式会社



# CSR報告書

# 2020

Corporate Social Responsibility Report

## Act For Life

地球を、  
キモチいい家に。



# 世界の人々の安全で快適な暮らしに 貢献していくために



アース製薬株式会社  
代表取締役社長

川端克宜

## マインドチェンジし、 新たな変化に立ち向かう

2020年は、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大からはじまり、未だ先の見えない状況が続いています。アースグループは、除菌剤やマスクなど感染症対策に強みを持つ事業があることから業績には大きな影響がなく、社員にも最大限の安全対策を徹底しながら事業を続けることができました。また、以前よりBCPの観点から原材料の調達先を分散していたこともあり、製品の提供を継続でき、サプライチェーンでの柔軟な対応が重要だと改めて認識することができました。

一方、緊急事態宣言が発出されて以後は、働き方はじめ世の中は大きく変わりました。「新しい生活様式」に沿って、私たちもしっかりとマインドチェンジしなければなりません。予測を超えた事態にも対応できるよう、これまでのスタンダードも見直していく必要があります。消毒剤の使用が増えています。使うシーンによってスプレーボトルの形状を使いやすく変えるなど使いやすい製品を開発するのは当社の得意とするところですから、機会を逃さずにやっていきたいと思えます。

アース製薬は「虫媒介の感染症対策」に注力することを使命としており、事業そのもので社会の課題解決に貢献してきました。今後は範囲を拡大して、予防も含めた「感染症のトータルケアカンパニー」となることで、さらに存在価値、企業価値を高めていきます。そのためにも、社員一人ひとりが「世の中に貢献している」という高い意識を持って自らの成長を促し、業務に取り組んでいくことが重要であり、そうした環境を整えることが経営の課題でもあり、CSR活動推進の課題でもあります。

## 変化に柔軟に対応することが 成長につながる

アース製薬は、2012年から相乗効果を期待したM&Aを積極的に行っており、新製品の開発や新たな市場開拓に成果を上げています。グループ各社がそれ

ぞれに強みを持っていますが、グループ一体となって目標に向かって取り組むことでより社会に貢献できるという意識を持ち、外に向けてもアースグループとしてメッセージを発信していくことが大事だと思っています。

企業文化の融合もゆるやかに進んでおり、グループを超えた会議や人事交流、役員の入れ替えなどもフレキシブルに行っています。組織という枠組みにとらわれず、個々に適した部署で能力を発揮することで、グループ全体を活性化させるという効果もあり、今後は海外も含めて活発にやっというと考えています。

## 世の中の声に耳を傾け、期待に応える

新型コロナウイルスの影響により、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が延期となりました。オフィシャルパートナーとしては残念ではありますが、東京大会の開催は東日本大震災からの復興のシンボルでもあり、その大会をサポートするという意義を前向きに捉え、虫ケア製品のトップメーカーとしての使命感を持ってサポートを継続していきます。

2020年7月には、女子プロゴルフツアー「アース・モンダミンカップ」の開催もメディアで大きく取り上げられました。このような時期にスポーツの力に勇気づけられる人は多いと思いますし、役に立てるのであればなんとか応援しようということから開催を決意しました。誰もがこの状況は無理だと思っても、なんとかできる方法を模索する姿勢が、アースグループにはあります。そして、開催後には多方面から評価もいただきましたし、今後の感染症予防対策などについても大変良い経験になったと思います。

## ESGへの取り組みを強化し、 企業価値を向上させる

昨今、ESGへの取り組みが企業の評価につながっていますが、アースグループがこれまでに取り組んできたことを改めてそのくりに照らし合わせると、すでに実践していることが多くあります。今後はそれらをさらに進化させて強化していきます。

私は常々、事業として行っていることが、社会に貢献し、さらに企業価値の向上につながることを、すなわちCSVを意識することが大切だと言ってきました。感染症をトータルにケアしていくためには、自社だけでは難しいこともあります。大学や研究機関、ベンチャー



企業、自治体を含む異分野の持つ知見を組み合わせ、オープンイノベーションでやっていくことで感染症を含む社会課題の解決につなげることが可能であると考えています。

一方では、アースのポリシーでもある「お客様目線による市場創造」に直結する「お客様の声」というものも大事にしています。そのために「お客様相談室」を社長直轄の部門として上位に位置づけ、そこで得られた情報は社内に広く発信し、製品開発に活かすしくみづくりも行っています。

## 世界から感染症をなくしたい

2014年ころから日本では毎年異常気象が続いており、企業経営にも影響が出ています。もはやそれが当たり前という姿勢で経営に臨まないといけません。リスクマネジメントの意味からも、ASEANをはじめ必要とされる国でも役に立ちたいという思いからも、海外での事業展開を進めています。

また、ものづくりの企業として「環境保全」という課題に対してはあらゆる面に関わっており、アースができることは全部やるという意志を持って取り組んでいます。環境対応以外の社会課題解決に関しても、SDGsが示す目標をCSR活動に取り込み、事業と対応させながら取り組んでいきます。

アースグループは、過去の成功体験に固執せず、時代の変化に柔軟に対応し、常に変化を続ける——これからもそうであり続けることで、世界中で感染症に苦しむ人々へ予防対策を示し、安全で快適な生活環境を実現することで社会に貢献し、持続的に成長していきます。



## アース製薬の経営とCSR

アース製薬の経営理念は、「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」こと。  
この経営理念を追求することにより、人類共通の世界目標であるSDGs（「持続可能な開発目標」）に貢献できると考えています。そして、経営理念の実現は、当社のCSRそのものです。



**アース製薬の強み**

**製品開発**  
オープンな雰囲気と最新の研究設備で独自性の高い製品を開発

**生産管理**  
最適な生産体制と高度な管理体制で常にベストクオリティの製品をお客様のもとへ

**営業戦略**  
業界屈指の営業部員数を活かし、お客様目線での独創的な売り場づくりを可能に

**グローバル戦略**  
緻密な市場調査による地域密着型のビジネスモデルで、全世界に製品をお届け

家庭用品事業		総合環境衛生事業	
売上額	173,022 百万円	売上額	25,571 百万円
売上高構成比	87.1%	売上高構成比	12.9%
内訳			
虫ケア用品部門 59,394 百万円 / 29.9%	虫ケア用品 オーラルケア 入浴剤 消臭芳香剤	日用品部門 105,369 百万円 / 53.0%	ペット用品・その他部門 8,258 百万円 / 4.2%
	お掃除用品 衛生用品 園芸用品 美容食品		

**中期経営計画**

2021年からの次期中期経営計画では、従来の取り組み骨子を踏襲し、戦略の方向性を「アジア収益基盤の拡大」、「ESG・オープンイノベーション」、「コストシナジーの創出」と定めています。また、進めている数値の見え方を発展させ、重視する指標=モノサシの刷新を進めています。

構造改革	戦略の方向性
モノサシ・メトリクス刷新	アジア収益基盤の拡大
	ESG オープンイノベーション
	コストシナジー創出

【アースポリシー】	【アースバリュー】
お客様目線による市場創造 Creating a Market with customers	全員参画 One Earth
熱意・創意・誠意 Passion・Innovation・Integrity	コミュニケーション Open communication
すぐやる・必ずやる・最後までやる Momentum・Achievement	人がすべて Diversity

**【経営理念】**

<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。  
We act to live in harmony with the Earth.

**注力するCSRテーマ**  
（アース製薬が解決すべき社会課題）

**保健衛生(感染症)**  
虫ケア用品を通じた虫媒介感染症撲滅への貢献(SDG3.3)

**保健衛生(口腔内環境)**  
オーラルケア用品の普及を通じた口腔衛生への貢献(SDG3)

**環境**

- 廃棄物削減に向けた季節製品の返品削減(SDG12.5)
- 製品ライフサイクルを通じた環境・健康上適正な化学物質の管理(SDG12.4)
- 工場、オフィス、物流におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減(SDG13.1)
- 自然災害などに対する事業のレジリエンスの強化(SDG13.1)

**労働環境**

- 働きがいのある仕事と職場の創出(SDG8.5)
- ダイバーシティの推進(SDG5.1/5.5/8.5)

<sup>いのち</sup>生命と暮らしに  
寄り添い、  
地球との共生を  
実現する。



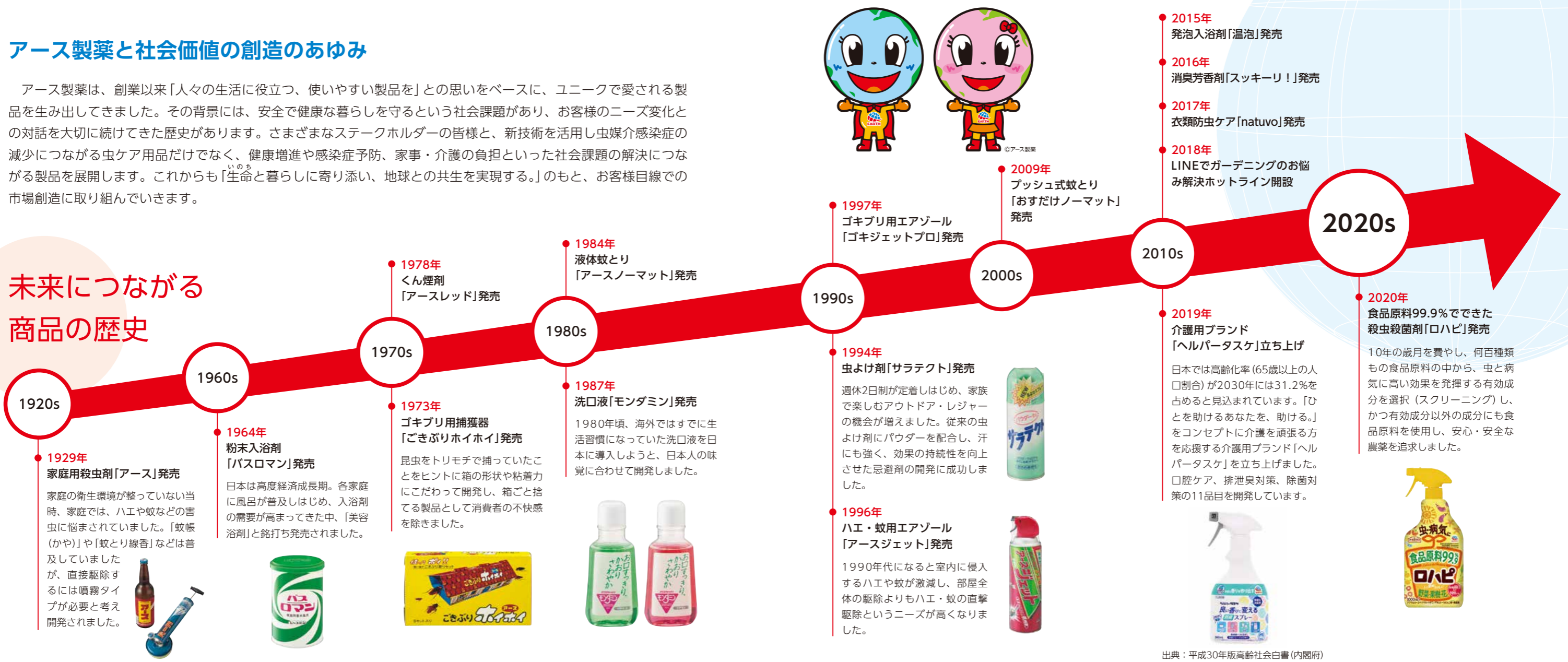
## CONTENTS

トップメッセージ	1	【環境報告】 Environmental 地球と共生するために	15
アース製薬の経営とCSR	3	【社会性報告】 Social 社会と共生するために	21
アース製薬と社会価値の創造のあゆみ	5	【ガバナンス】 Governance 信頼を得るために	29
Highlights 2019	7	第三者意見	32
アース製薬のCSR	11	会社概要、基本データ、編集方針	33
CSRマネジメントデータ	13		

## アース製薬と社会価値の創造のあゆみ

アース製薬は、創業以来「人々の生活に役立つ、使いやすい製品を」との思いをベースに、ユニークで愛される製品を生み出してきました。その背景には、安全で健康な暮らしを守るという社会課題があり、お客様のニーズ変化との対話を大切に続けてきた歴史があります。さまざまなステークホルダーの皆様と、新技術を活用し虫媒介感染症の減少につながる虫ケア用品だけでなく、健康増進や感染症予防、家事・介護の負担といった社会課題の解決につながる製品を展開します。これからも「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」のもと、お客様目線での市場創造に取り組んでいきます。

## 未来につながる商品の歴史



## 進化し続けるお客様目線による製品開発

アース製薬は、SDGs(持続可能な開発目標)の課題3「健康と福祉」を重要テーマとして製品の開発に取り組んでいます。その中で、虫媒介感染症の主要害虫である「蚊」対策商品「アースノーマット」シリーズ、健康の源となる「お口の健康を守り続ける」ため口腔ケアブランドである「モンダミン」シリーズなど、常に時代のニーズを先取りしお客様に寄り添った商品提供を続けています。



### TOPIC 01

#### 蚊とりの進化

蚊とり線香、蚊とりマット、液体蚊とりのように、虫ケア用品は常に進化を続けています。近年、最先端のプッシュ式蚊とりのメカニズムを応用し、不快害虫用、芳香剤、防虫剤などの製品開発を実現しています。皆様の健康を守るためのより便利で、より手軽な製品をこれからも開発していきます。



最新技術を  
さまざまな分野に  
展開



### TOPIC 02

#### オーラルケアの進化

日本独自の文化に根差したオーラルケアブランドとしてスタートした「モンダミン」を通じ、健康と直結するオーラルケア商品でさまざまなニーズにこたえる提案を行っています。オリジナルの「モンダミン」をはじめ、子ども用、歯周病対策、歯科医院専売などのニーズ提案を行っています。この技術を介護用、除菌剤などのさまざまな商品に展開していきます。



# 2019 Highlights

アース製薬は、事業とかわりの深い虫ケア・感染症予防をはじめ、さまざまなCSR活動を推進しています。今回、2019年度に取り組んだ主な取り組みについて、ハイライトとしてご紹介します。



## 「虫ケア」の取り組み

アース製薬は、虫ケア用品を扱うメーカーの責任として、虫ケア用品の正しい知識と啓発に努め、世界の感染症患者が1人でも減るように貢献していきます。

### Hot Topics

#### 殺虫剤の呼称をやめて、「虫ケア用品」に

今まで「殺虫」という文字の印象だけで、「毒性が高そう」という誤解を生んできました。この誤解により、人々がデング熱やジカ熱などの虫媒介感染症予防の適切な対策がおろそかになってしまふことは何としても避けたいと考えました。

私たちが提供している商品の目的は、「虫を殺す」ことではなく「人を守る」ことです。

呼称を変更し、安全性の高い商品だと正しく伝えること、商品がイメージしやすく呼びやすいネーミングであること、感染症予防にとって重要な商品群の一つであると表現することを重視しました。



正しい商品知識をお知らせするために

#### 東京2020オリンピック・パラリンピックオフィシャルパートナー(虫ケア用品)として

感染症は、人が集まる時、人の移動が多い時、海外への往来が増える時に拡大するリスクが高まります。世界中の人々が集まる東京2020大会においては、より一層対策の強化が必要とされます。

アース製薬は、東京2020大会オフィシャルパートナーとして掲げたスローガン「2020の夏も、アースが守る。」のもと、懸念される感染症の一つである虫媒介感染症のリスクを少しでも減らし、皆様が安心・安全に東京2020大会を観戦するために、さまざまな虫ケア啓発活動に取り組んでいます。

2020年の開催は1年後に延期となりましたが、アース製薬では、引き続き多くの方々に虫ケアの必要性を知っていただきたいと考えています。



東京2020オフィシャルパートナー  
(虫ケア用品、家庭用肥料、培養土及び除草剤)

#### ■ 虫ケアステーション

「虫ケアステーション」とは、虫媒介感染症のリスクについて紹介し、実際に「サラテクト」を用いて虫よけ剤の正しい使い方(裏表紙参照)を説明しながら屋外での虫よけ対策を呼び掛けるためのアースオリジナルのブースです。

昨今、日本では、蚊が媒介するデング熱、ジカ熱だけでなく、蚊と同様に身近に生息するマダニによって媒介されるSFTS\*や日本紅斑熱といった感染症が増加傾向にあり、2019年は過去最高の感染者数に達しました。こうした被害を少しでも未然に防ぐために虫よけ剤は大切な役割を果たします。ただ、虫よけ剤の正しい使い方についてはまだまだ浸透が足らず、その普及啓発のためにも「虫ケアステーション」を広めていこうと考えています。

\*SFTS: Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome (重症熱性血小板減少症候群)



体験しながら正しい虫ケアの知識を理解してもらう

#### ■ 虫ケアセミナー

新たな虫ケア啓発の取り組みとして、「アース虫ケアセミナー2019」を開催しました。本セミナーは、一般の方々に、害虫に対する正しい知識と対策を理解していただくことを目的としています。講演では、無類の虫好きとしても有名な、兵庫医科大学皮膚科医の夏秋優先生による「虫は友だち！毒虫だってこわくない!？」と題した、蚊に刺されて起こる皮膚炎や、虫よけ剤の安全性、有効性に関する講演、次に、輸入感染症の専門医で日本感染症学会オリンピック・パラリンピックアドホック委員会委員としても活躍されている、国立国際医療研究センターの忽那賢志先生が「蚊に注意!？東京2020大会の観戦と感染」と題し、東京2020大会に向けた注意喚起を行い、自身の身を守るための防蚊対策の徹底を呼び掛けました。

当日は募集を大きく超える聴講者が参加し、一般の方々の虫ケアに対する関心やニーズの高さがうかがえ、今後も学識者との連携により信頼度の高い情報発信を取り入れた虫ケア啓発活動を進めていきます。



セミナー登壇者によるトークセッション

#### ■ 東京2020教育プログラム

アース製薬では、東京都オリンピック・パラリンピック教育推進支援事業に協力し、教育プログラム提供の一環として東京都内の小学校に出向いて虫ケア啓発授業と植育教室を行っています。虫ケア啓発授業では、オリンピック・パラリンピックと感染症対策との関係性や、虫の正しい知識と対策を学んでもらうことを目的とし、害虫標本の展示やグループワークを通して子どもたちに説明しました。

植育教室では、校内の菜園や花壇など子どもたちの身近な植栽のお世話をすることで、思いやりの心を育み、ボランティア精神や環境保全意識の醸成につながることを目的としています。クイズを交えた授業とともに、実際に、季節の野菜や花などの種の植え付けを指導しながら行いました。



次代を担う子どもたちへの教育は重要

#### ■ 日本陸上競技連盟への協賛

2019年度は、アース製薬が協賛する公益財団法人日本陸上競技連盟で、選手の練習環境と試合環境の向上のために虫ケア啓発を行いました。同連盟より害虫対策の要望をいただき、関連施設および施設を利用する選手に虫よけ剤「サラテクト」、液体蚊とり「アースノーマット」などの虫ケア用品を提供し、同連盟にて贈呈式を執り行いました。また、施設や海外遠征でのトレーニングにおいて虫の被害を多く経験している選手や指導者に向けた虫ケア勉強会も開催し、虫媒介感染症対策の正しい知識と予防の理解を啓発する機会となりました。今後も選手たちにとって安心して練習できる環境が整えられるよう、虫ケア用品メーカーとしてサポートしていきます。



安心して競技に取り組んでもらうために



## NPO/NGOとの協働

アース製薬では、国内外のさまざまなNPO/NGOなどと協働し、団体の活動支援や地域の課題解決につながる活動を行っています。

### Hot Topics

#### 海外での感染症予防事業

Earth(Thailand)Co.,Ltd.では、政府機関や現地NGOと協働し、現地の赤十字、地域の診療所や大学附属病院、動物病院、動物保護施設などへ虫ケア用品などの寄付を実施しています。

タイ東部のイサーン地域で大きな洪水被害が発生した際には、災害地域で発生する感染症から地域の人々を守るため、地域や軍などの機関へ商品を寄付しました。また、北部での雨季のデング熱感染症が拡大した際には、蚊媒介感染症を予防する寄付や活動を展開しました。2019年には18回の活動を実施、これらの活動を通じ、のべ900万円を超える寄付・商品提供を実施しています。

これからも、地球規模の社会課題となっているデング熱やマラリアなどの虫媒介感染症予防のため、人々の命を守る取り組みを継続していきます。

WHOデング熱・重症デング熱ファクトシート  
<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/dengue-and-severe-dengue>



デング熱を媒介する蚊 Photo courtesy of USDA

WHOのデング熱感染者集計報告によると、2019年には、東南アジアのマレーシアでは、13.1万人、フィリピンでは42万人、ベトナムでは32万人と多数のデング熱ウイルス感染症例が報告されました。また、同年アメリカ大陸でも313万人を超えるデング熱感染者が発生し、多くの人々が重症デング熱出血熱性ショックにより命を落としています。また、デング熱は、ヨーロッパの海外帰国者の発熱原因として、マラリアに次ぐ2番目に上昇しています。

#### ■ チャイルド・スポンサーシップ

アース製薬が事業展開している東南アジアの子どもたちに国際NGOワールド・ビジョン・ジャパンのチャイルド・スポンサーシップを通じて支援しています。

この活動は支援地域の人々が子どもたちの健やかな成長のために必要な環境を整えていけるよう、水衛生、保健、栄養の改善、教育機会の拡充、生計向上等を行うものです。2016年からは、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、タイの子どもたちが住む地域の衛生向上事業も応援しています。



子どもたちの笑顔のために

World Vision 国際NGOワールド・ビジョン・ジャパン  
<https://www.worldvision.jp/children/sdgs.html>

#### ■ 「春めき財団\*」の活動に協賛

「春めき」は3月に開花し、たくさんの花と甘い香りのする桜で、見た目だけでなく、香りも楽しめることが特徴です。

この「春めき」の香りを通じて、目の不自由な方にも早春の雰囲気を届けたいという一般財団法人 春めき財団の趣旨に賛同し、季節限定の消臭芳香剤商品「スッキーリ！」

Sukki-ri! SAKURA 春めきの香り」を上市、一足早い春をお届けすることができました。また2020年2月28日にこの商品の売り上げの一部を財団への協賛金としました。

\*春めき財団：一般財団法人 春めき財団は、神奈川県南足柄生まれの早咲き桜「春めき」(2000年品種登録)の普及活動を通じ、視覚障がい者支援、就農者支援などを行っています。

#### ■ 寄付型自動販売機

アース製薬では、売り上げ1本ごとに人道支援、子ども支援、動物支援、環境支援など希望した団体へ寄付をすることができる寄付型自動販売機を設置し、2020年4月より本稼働しました。

「特定非営利活動法人 国境なき医師団日本」の医療を必要としている人々に診察と治療の機会を提供するという基本活動理念に賛同し、社内自動販売機1本ごとに3円の寄付を行っています。



お部屋のスッキーリ! Sukki-ri! SAKURA 春めきの香り  
トイレのスッキーリ! Sukki-ri! SAKURA 春めきの香り



日常の行動で社会に貢献



## アース製薬の研究開発

アース製薬の研究開発本部では、常に「お客様目線」を念頭に置き、研究者自身が現場に行き、直接見て、聞いて、知った情報をものづくりに生かしています。

### 研究開発の基本方針



アース製薬のものづくりで最も重要なことは「お客様目線」

- 有用な技術や素材は「誰のために」、「どう使うか」で捉える
- お客様自身も気づいていない日常生活の課題や不満を見つけ出す
- 独創的な商品によって、お客様の生活習慣にチェンジをもたらす
- 安心・安全・使いやすい・わかりやすいにこだわる
- 社会の役に立つ商品を生み出し続ける

#### ■ お客様の声を拾いに現場へ行く

お客様と私たちの商品の接点は店頭・現場です。毎年、全研究員がホームセンターなどの店頭立ち、あるいは介護施設や在宅介護のご家庭を訪問し、お客様から生の声をいただき、商品リニューアルや新製品開発に生かしています。



新たな気づきを得る大切な機会

#### ■ 安全性に配慮した商品づくり

お客様に安心・安全な製品をお届けするため、製品に使用するすべての成分について、使用実績や安全性情報を収集し、確認しています。さらに、使用者(お客様)、使用方法、使用量、接触部位、接触時間等を考慮したリスク評価を実施し、さまざまな角度から安全性を審査しています。必要に応じて、外部の安全性試験を実施し、安全性に最大限配慮した製品開発を行っています。

#### ■ 独創的なアイデアの創出

アイデア創出の原動力の一つが、定期的開催されるアイデア検討会です。仲間のアイデアを否定せず、囁き立て

るという暗黙のルールがあります。この誰もが恐れず自由に発言できるストレスフリーな場が、ふとしたひらめきを思いもよらぬ形へと飛躍させます。近年では、アースグループ間でも研究者同士が交流し、異なる技術を交差させ、アイデアを生み出す新たな取り組みも行っています。



視野を広げるために

#### ■ 社会に役立つ製品開発

～感染症の脅威に立ち向かう～

近年、日本でも経済活動のグローバル化に伴いデング熱をはじめとする蚊媒介感染症の脅威が増加しています。「ヤブ蚊マダニジェットプロプレミアム」は、一般家庭用のヤブ蚊スプレーとして初めて「エトフェプロロックス」という成分を採用しました。この成分は水生生物への影響が比較的小さく、幼虫の発生源も処理できるため、蚊の成虫対策と幼虫対策を一度に行うことができます。

また、世界的なウイルス感染症の拡大を受け、感染症対策をサポートできるような製品開発にも取り組んでいます。「らくハピアルコール除菌EX」をはじめ、当社のウイルス対策製品はすべて外部試験機関でその効果を検証しています。

#### 知財に関する基本的な考え方

アース製薬では、研究開発で得られた成果を積極的に権利化することで競争優位性の確保に努めています。また、自社にとって有益な特許や意匠といった権利の維持、活用に取り組んでいます。

#### 知的財産権保有件数

	保有件数
特許	253
意匠	177

※2020年7月31日時点 日本のみ

#### 2015年～2019年の特許登録件数(5年分)

登録年度	2015	2016	2017	2018	2019
登録件数	18	23	23	25	23

※登録日基準、日本のみ

# アース製薬のCSR

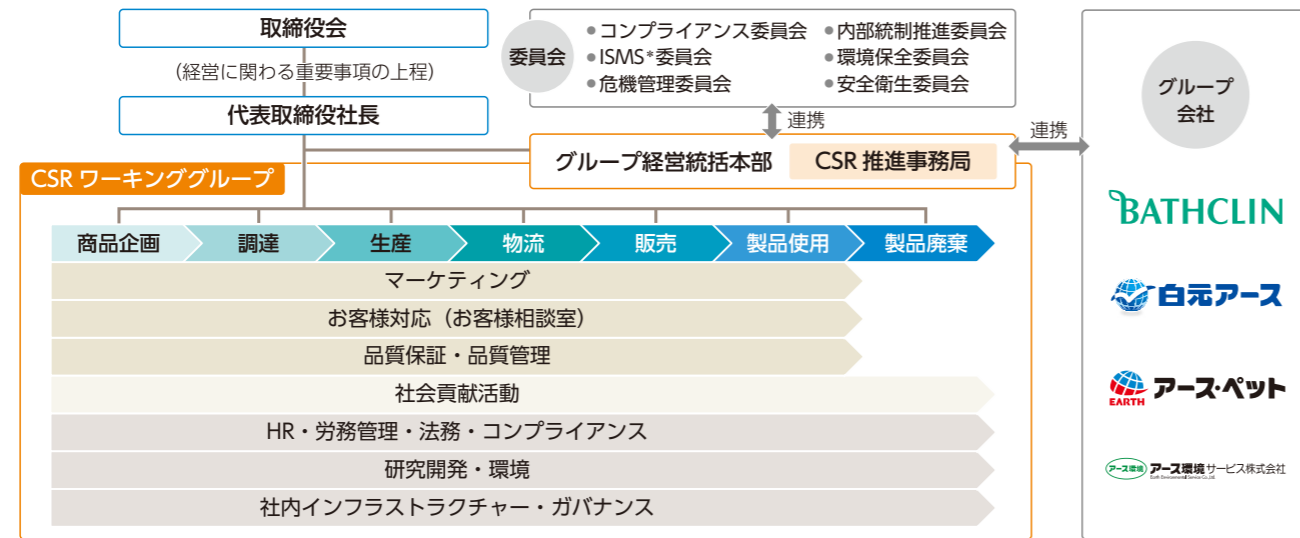
## CSR方針

アース製薬（グループ）は、安全で快適な暮らしの提供を通じた自社と社会のサステナビリティの実現に向けて、あらゆるステークホルダーの立場や目線を尊重し、積極的に対話を行いながら、全社員が参画してCSR活動に真摯に取り組めます。

## CSR推進体制

アース製薬は、CSR方針のもと、環境、社会、ガバナンスの3分野を俯瞰し、CSR活動を効果的かつ円滑に推進していくため、グループ経営統括本部内に「CSR推進事務局」を設置しています。また、現場でCSRを推進する「CSRワーキンググループ」を設置し、CSR推

進事務局とともに、活動計画や目標のモニタリング、活動内容の社内共有やCSR報告書の作成を行っており、ステークホルダーの期待を踏まえた適切な情報発信に取り組んでいます。



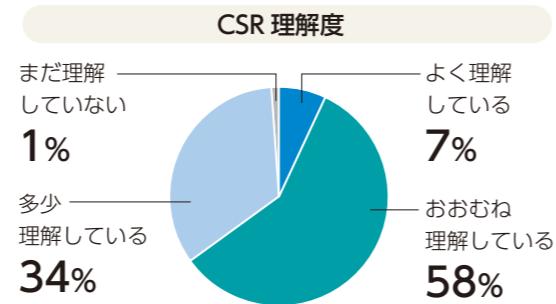
\* ISMS : Information Security Management System

## CSR活動の浸透

社員のCSR理解促進を目的として、社内でCSR報告書を読む会やCSR説明会を実施しています。2019年は本社、赤穂事業所、赤穂・坂越・掛川・徳島工場、各支店、EMAL会議、新人研修などで22回を超える説明会を実施し、600名を超える社員が出席しました。

説明会では、CSRの考え方や取り組みの必要性、CSRに関連した世界の動き、当社が注力すべき取り組みや現在具体的に取り組んでいる活動報告など幅広く説明することで、社員一人ひとりがCSR活動について考え、意識する場としています。

また、説明会後にアンケートを実施し、CSRへの理解度や今後の活動に対する要望などを募り、さらなる活動の発展に役立てています。



### アンケート実施後のコメント（抜粋）

- 企業存続には利益が必要なので、CSRがただのボランティアではなく、社会に貢献できる価値を生み出す活動になれば良い。
- 業務にCSRがリンクすることが「見える化」されると社内認知度は高まると思う。こういった素晴らしい活動をもっとお客様にも知っていただきたい。
- 商品、パッケージにおける取り組みの強化など、CSR活動を通じ、環境問題で評価される会社になってほしい。

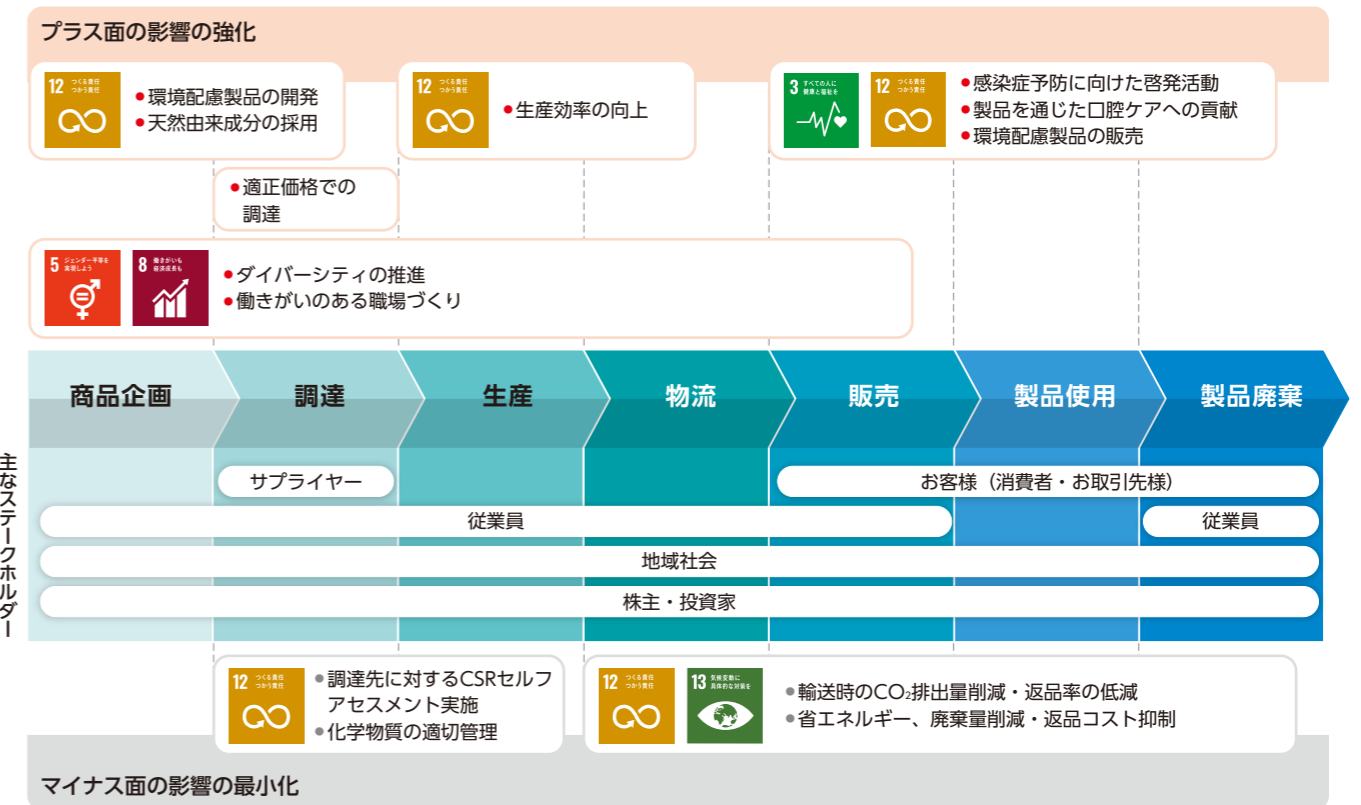
## アース製薬のステークホルダー

ステークホルダー	アース製薬の主な責任	コミュニケーション方法
お客様（消費者・お取引先様）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様の生命と暮らしに寄り添い、製品・サービスを通じて良質で快適な暮らしを提供することに努めます。</li> <li>● お客様とのコミュニケーションを大切にし、いただいた声をより良い経営に生かすことに努めます。</li> <li>● 公正な取引に関連する法令や社内ルールを遵守します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様窓口によるサポート</li> <li>● 広告宣伝</li> <li>● ウェブサイトなどによる情報提供</li> <li>● 営業活動を通じたコミュニケーション</li> </ul>
社員とその家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アースバリュー「人がすべて」の価値観に基づき、社員間のコミュニケーションを大切に、社会とともに発展・成長します。</li> <li>● 社員が働きがいや、やりがいをもって活躍できる職場を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社内報・イントラネット</li> <li>● 各種研修の実施</li> </ul>
サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買方針に基づき、公正に取引先を決定します。また、取引先の皆様にCSR活動を励行いただけるよう、CSR調達を推進します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購買活動を通じたコミュニケーション</li> <li>● CSRセルフアセスメントの実施</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 適時・適切な情報開示により、説明責任を果たし、経営理念やビジョン、計画などの理解促進を図り、企業価値が適正に評価されることに努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主総会</li> <li>● 機関投資家・アナリスト向け決算説明会</li> <li>● 個別面談</li> <li>● ウェブサイトなどによる情報提供</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際社会との共生を目指し、保健衛生の向上、文化・スポーツの支援などに取り組み、社会に貢献します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域清掃活動</li> <li>● 出張教室の実施</li> <li>● 各種イベントの開催</li> </ul>

## バリューチェーンにおけるCSR活動

アース製薬はCSR活動の推進状況および注力すべきCSR課題を把握するため、バリューチェーン上に取り組んでいる活動をマッピングしています。注力すべき

課題については、目的をプラス面の影響の強化とマイナス面の影響の最小化に整理し、目標、取り組み内容、達成度の確認と活動内容の改善を進めております。



CSRマネジメントデータ

		担当	中長期目標 (2020年)	2019年 目標		
注力するCSRテーマ	虫ケア用品を通じた 虫媒介感染症撲滅への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]	トレード マーケ ティング部	-	30,000	
	オーラルケア用品を通じて お口の健康への貢献	講演会などのイベント参加者数 [名]		55,000	6,000	
	季節製品の返品削減	返品率(虫ケア用品) [%]	営業本部	6.8	7.7	
	地球温暖化防止の取り組み	工場・オフィスなどのCO <sub>2</sub> 排出量 [t-CO <sub>2</sub> ]	環境 管理室	8,100	7,889	
		物流でのCO <sub>2</sub> 排出量 [t-CO <sub>2</sub> /千トンキロ]		0.131	0.130	
	働きがいのある 仕事と職場の創出	ワークライフ バランス実現の 取り組み	有休消化率 [%]		78以上	75以上
			育児休業取得率 [%]		男女ともに100	男女ともに100
			育児休業からの復職率 [%]		男女ともに100	男女ともに100
			育児休業復職後12カ月経過時点での定着率 [%]		男女ともに100	男女ともに100
			介護休業取得者数および休業からの復職率 [名、%]		-	-
		社員の エンゲージメント	社員平均勤続年数* [年]		-	-
			入社後3年間の離職率 [%]		-	-
			社員に占める女性の割合* [%]		50	50
			社員採用比率(男:女)* [%]		50:50	50:50
			女性管理職比率* [%]		10	7
	ダイバーシティの 推進	ダイバーシティ 推進の取り組み	社員平均年齢* [歳]		-	-
			高齢者採用数 [名]		-	-
			高齢者再雇用数 [名]		-	-
			障がい者雇用率* [%]		2.3	2.3
女性の基本給の、男性の基本給に対する比率				-	-	
環境	省資源への 取り組み	水使用量 [千m <sup>3</sup> ]		86.5	86.0	
	廃棄物削減の 取り組み	コピー用紙使用量 [千枚]		-	4,487	
	化学物質削減の 取り組み	PRTR排出量 [kg]		30kg以下を維持	-	
	環境マネジメント	環境法規制の違反 [件]		-	-	
ESG	お客様とともに	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反件数 [件]	お客様 相談室	0	0	
		製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反件数 [件]		0	0	
		マーケティング・コミュニケーションに関する違反件数 [件]		0	0	
	社員とともに	社員総数 [名]		-	-	
		男性 [名]		-	-	
		女性 [名]		-	-	
		正社員数 [名]		-	-	
		男性 [名]		-	-	
		女性 [名]		-	-	
		新卒採用人数 [名]		-	-	
		男性 [名]		-	-	
		女性 [名]		-	-	
		中途採用人数 (正社員) [名]		-	-	
		男性 [名]		-	-	
		女性 [名]		-	-	
		初任給 [円]		-	-	
		1人当たり年間総労働時間 [時間]		-	-	
	年間所定労働時間 [時間]		-	-		
	労働安全衛生・ 社員の健康の 取り組み	労働災害発生件数 [件]		0	0	
		労働災害発生率 [%]		-	-	
労働災害強度率 [%]			-	-		
メンタルヘルス休職者数 [名]			-	-		
人権への取り組み	人権に関する教育プログラム件数 [件]		1	1		
	人権に関する研修受講者数 [名]		-	-		
ガバナンス	コンプライアンス	内部通報・相談件数 [件]		-	-	
		従業員のコンプライアンス研修 (および腐敗防止研修) 受講者数 [名]		-	-	
	コンプライアンス違反件数 [件]		0	0		
取締役会	取締役会の開催回数/出席率 [回/%]		出席率100	出席率100		
	社外取締役員数 [名]		-	-		

\*取締役、執行役員(2018年3月までは役員待遇)、正社員、継続雇用者(嘱託・継続雇用・新エルダー・再雇用)、契約社員(時給除く)、EMALが対象者。役付取締役、監査役、社外役員、時給者(契約社員・パート・アルバイト)、顧問は対象外。

2019年 実績	2018年 実績	2017年 実績	2016年 実績	2015年 実績	補足説明
40,000	10,000	263	478	-	
13,000	2,000	205	-	-	
6.9	8.5	8.5	10.5	12.3	
7,633	7,789	8,161	6,590	6,264	・社用車含む ・2017年モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル(株)から移管) ・2019年10月 Act Terraceの追加
0.126	0.132	0.139	0.132	0.135	
73	74.3	63.3	-	-	・2019年分として付与した日数に対し、2019年中に使用された日数
男性18.2/女性100	男性22.2/女性100	男性11.5/女性100	男性0/女性100	男性3.0/女性100	・2018/1/1~2018/12/31出生が対象(一部算出方法変更)
男女ともに100	男女ともに100	男女ともに100	男性100/女性88.2	男女ともに100	
男女ともに100	男女ともに100	男性100/女性86.7	男女ともに100	男性該当なし/女性90	
2名/-	0名	1名/100%復帰	1名/100%復帰	0名	・期間:2019/1/1~2019/12/31
14.8	14.5	14.5	14.8	13.4	・2019年12月31日時点
22.2	13.6	30.8	25	3.2	・新卒採用の3年後の状況、2019年集計結果は2016年4月入社が対象
38	39.1	39.6	40.2	41.7	・2019年12月31日時点
70:30	67:33	57:43	72:28	67:33	・期間:2019/1/1~2019/12/31
6.4	5.3	4.9	5.4	4.9	・2019年12月31日時点
42.9	42.4	42.5	42.2	40.8	・2019年12月31日時点
1	2	2	2	0	・期間:2019/1/1~2019/12/31 60歳以上
77	67	63	61	49	・アースで60歳を迎えた新エルダー、契約社員で12/31時点在籍者 2019年12月31日時点
2.3	2.2	2.2	2.2	1.9	・2019年12月31日時点
100	-	-	-	-	・2019年新卒採用の入社時に比較
93.2	81.2	77.6	48.3	42.6	・本社・工場のみ ・2017年モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル(株)から移管) ・2019年10月 Act Terraceの追加
3,955	4,648	4,709	5,418	5,597	
2,044	2,341	2,701	3,254	2,774	
27.3	34.1	21.3	1.5	1.2	・燃料を除く ・2017年モンダミン新工場の完成、徳島工場の追加(旧アース・バイオケミカル(株)から移管)
0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	
0	0	0	0	0	
1,265	1,312	-	-	-	・2019年12月31日時点
783	799	-	-	-	
482	513	-	-	-	
893	932	-	-	-	・2019年12月31日時点
679	714	-	-	-	
214	218	-	-	-	
30	39	-	-	-	
21	26	-	-	-	
9	13	-	-	-	
26	21	-	-	-	・期間:2019/4/1~2020/3/31
15	14	-	-	-	
11	7	-	-	-	
210,000	210,000	-	-	-	・大卒(修士230,000円) 2019年実績
1,932	-	-	-	-	
1,831	-	-	-	-	
14	28	18	25	13	・期間:2019/1/1~2019/12/31
2.6	3.43	2.19	2.73	-	・期間:2019/1/1~2019/12/31
0.04	0.01	0.03	0.01	-	・期間:2019/1/1~2019/12/31
3	1	4	5	5	・2019年12月31日時点
1	1	1	1	1	・新入社員研修+その他で実施したもの
30	40	33	28	24	・上記受講者数
1	5	3	10未満	10未満	・スピークアップ、ホットライン、苦情処理合わせて毎年10件未満
70	44	38	32	26	・毎年新入社員研修で実施。新入社員のほか、中途採用者も受講。
0	0	0	0	1	・コンプライアンス委員会がコンプライアンス違反と認めた件数 ・2015年度の違反件数は、「製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反件数」の内容と同一
12回/99.2%	12回/98.6	15回/95.4	12回/98.8	12回/97.7	
2	2	2	1	1	



# 環境報告 Environmental

## 地球と共生するために

アース製薬は、「いのち」  
「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」  
という経営理念のもと、持続可能な社会の実現に向けて、  
環境への取り組みを進めています。

### 環境宣言

私たちアース製薬は「いのち」  
「生命と暮らしに寄り添い、地球と共生」を  
基本理念に、あらゆる事業活動に対し、自ら積極的に  
地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献します。

### 環境基本方針

アース製薬は2007年に環境基本方針を定め、環境に配慮した事業活動を行っています。

1. 環境保全に関する法規制・取り決め事項・自主基準を遵守する。
2. 環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。
3. 省資源・省エネルギーを推進する。
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進する。
5. すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓蒙を行う。
6. 地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。
7. 環境保全に関する情報開示を積極的に行う。

### 環境マネジメントシステム

アース製薬では、2007年5月に環境マネジメントに関する全社的な組織を構築し、環境保全の取り組みを開始しました。

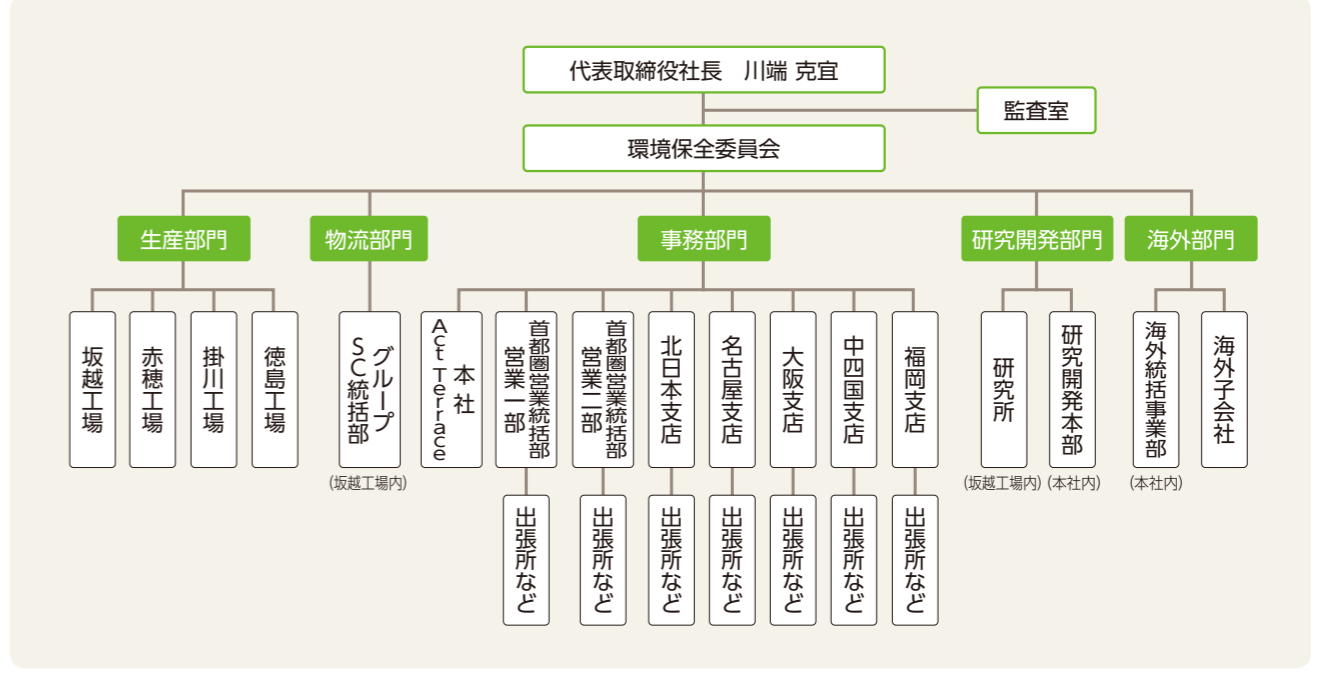
その取り組みを強化、継続するため2009年1月に本社・工場で環境省策定の環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証登録を受け、2010年4月には国内全事業所に拡大しました。また、2017年7月に当社の新たな事業所となった徳島工場(旧アース・バイオケミカル(株)から移管)も2019年2月に認証登録が完了しました。

このように全社でマネジメントシステムを運用し、外部機関による審査を受けることで、効果的に取り組み、活動の定着を図っています。



エコアクション21認証・登録証

### 環境マネジメント体制図



#### ● 環境教育

「環境基本方針」に沿って社員一人ひとりが高い意識を持って活動できるよう、全社員を対象に環境教育を実施しています。方針や目標、法規制、環境動向など基本的なことに加えて、各事業所・部署の責任者、担当者の役割に応じた教育、そして新入社員向けの教育も行っています。今後も教育内容を拡充していきます。

#### ● 内部監査

本社・工場・支店などを対象に毎年、環境内部監査を実施しています。監査ではチェックリストに基づき、取り組みを評価し、さらに相談や意見も受け付けながら、改善につなげています。内部監査の結果、2019年は法令違反など重大な事案はありませんでしたが、さらなる活動の推進のため、環境関連掲示物や環境教育について改善を要請しました。今後一層、監査員の育成と監査の実効性の向上を図り、環境マネジメント体制を強化していきます。

#### ● 法令遵守

事業活動を行う上で対象となる環境関連法規制は多くあり、その遵守状況を定期的に評価しています。2019年も違反や関係当局からの指摘はなく、過去10年以上ありません。しかし、法令遵守は最低限の義務であり、常にそれ以上の状態を維持できるように、社員教育やリスクの把握とその対策を行っています。

#### ● アースグループ内での連携

アースグループ各社が環境保全に取り組む中、グループ間の連携強化も進めています。工場・オフィス共通の取り組みは取りまとめ担当者などをメンバーとする「アースグループ事務局会議」、省エネルギーや廃棄物など工場特有で専門的な内容は実務担当者も参加する「アースグループ環境会議」を設けて、情報共有と相互理解を深めながら、具体的な活動をグループ各社に展開し、相乗効果につなげています。

### 地域社会と連携した環境への取り組み

アース製薬の主力工場である坂越工場、赤穂工場、そして研究所(坂越工場内)はいずれも兵庫県赤穂市に立地しています。赤穂市とは「環境保全協定」を締結し、排水などの基準の遵守、履行状況の報告、公開を行っています。また「赤穂環境パートナーシップ事業所」に登録し、赤穂市と協働で、温室効果ガス排出削減などの環境負荷低減に取り組んでいます。さらに、赤穂市内の企業、赤穂商工会議所で構成する「赤穂環境保全協議会」にも加盟し、会員企業と連携した環境保全活動も実施しています。このように地元環境保全にも積極的に参画しながら、地域社会との共生を図っています。



赤穂環境パートナーシップ事業所登録証

## 環境負荷の低減

### バリューチェーンを通じた取り組み

アース製薬では、環境負荷の低減や循環型社会の形成に向けて、製品開発、資材調達、生産、物流、販売のバリューチェーン全体で、地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の削減や適正管理などに取り組んでいます。

### 製品開発

容器や包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、つめかえ製品は、原材料の省資源化や家庭ごみの削減になると同時に、輸送段階でも省エネルギーやCO<sub>2</sub>排出量の削減につながります。このように製品のライフサイクル全体の環境負荷を意識しながら、「3R(リデュース(減量)、リユース(再利用)、リサイクル(再利用))」の視点で環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。また、天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品も拡充しています。



### 販売

社有車にハイブリッド車など低燃費・低排出ガス車を採用するとともに、営業活動で運転する際はエコドライブや効率的なルート選択などの実施により、車両からのCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。また、季節製品が売れ残ると返品され廃棄物につながることから、代理店様、小売業様と連携し、適正な需要予測に基づく適切な製品導入と売り場づくりに取り組んでいます。



### 物流

輸送時のCO<sub>2</sub>排出量を削減するため、物流の委託会社と連携して、輸送効率の向上を図っています。積載効率のアップやモーダルシフトの拡大、物流拠点の最適化など、今後も、より効率的な物流に取り組めます。



### 資材調達

### 資材調達

容器や包装材の減量化などの省資源化、リサイクル素材の採用など環境に配慮した原材料の調達を推進しています。また、原材料の納入形態を変更することで省資源化や輸送効率の向上に取り組んでいます。そのためにはお取引先様との連携が重要であり、環境などCSR調達に対する考え方を理解していただきながら進めています。



2020年より、「バスロマン」の紙缶を全てFSC®認証紙(適切に管理されていると認められた森林から生産された木材や、適切な森林資源の使用につながるその他の原材料を使用して作られた紙)に変更しました。今後も、環境に配慮した責任ある製品をお客様に提供できるよう、製品開発・原料調達に取り組んでいきます。



### 生産

### 生産

工場では、省エネルギー、廃棄物削減、節水などの環境活動も、生産現場のムダを取り除く「カイゼン提案活動」の一環と認識して、社員一人一人がさまざまなアイデアや意見を出し合いながら長年取り組んでいます。また、薬剤などの化学物質に関しては、取扱量・製品含有量などの収支管理、作業員への安全教育、漏えい対策・訓練など徹底管理のもと、安心・安全な製品づくりにつなげています。



### トピックス

#### ロングライフ化

製品のロングライフ化はお客様の利便性向上だけでなく、省資源や家庭ごみの削減にも寄与できると考え、既存の商品も少しでも長く使えるよう改良を重ねています。ゴキブリ用毒剤「ブラックキャップ」シリーズは2019年にリニューアルし、効力が従来から6か月から1年に進化しました。



#### カイゼン提案活動

これまでの活動のさらなる推進を図るため、各部署から若手メンバーで構成されたカイゼン推進プロジェクトを2019年に立ち上げました。「便利グッズコンテスト」など、新しい活動を進め、ONE TEAMのもと、提案数は前年を超え5,290件(前年比114%)、その効果金額は2,720万円です。今後も職場改革を進めていきます。



カイゼン提案発表会の表彰式

#### 賞味期限の延長

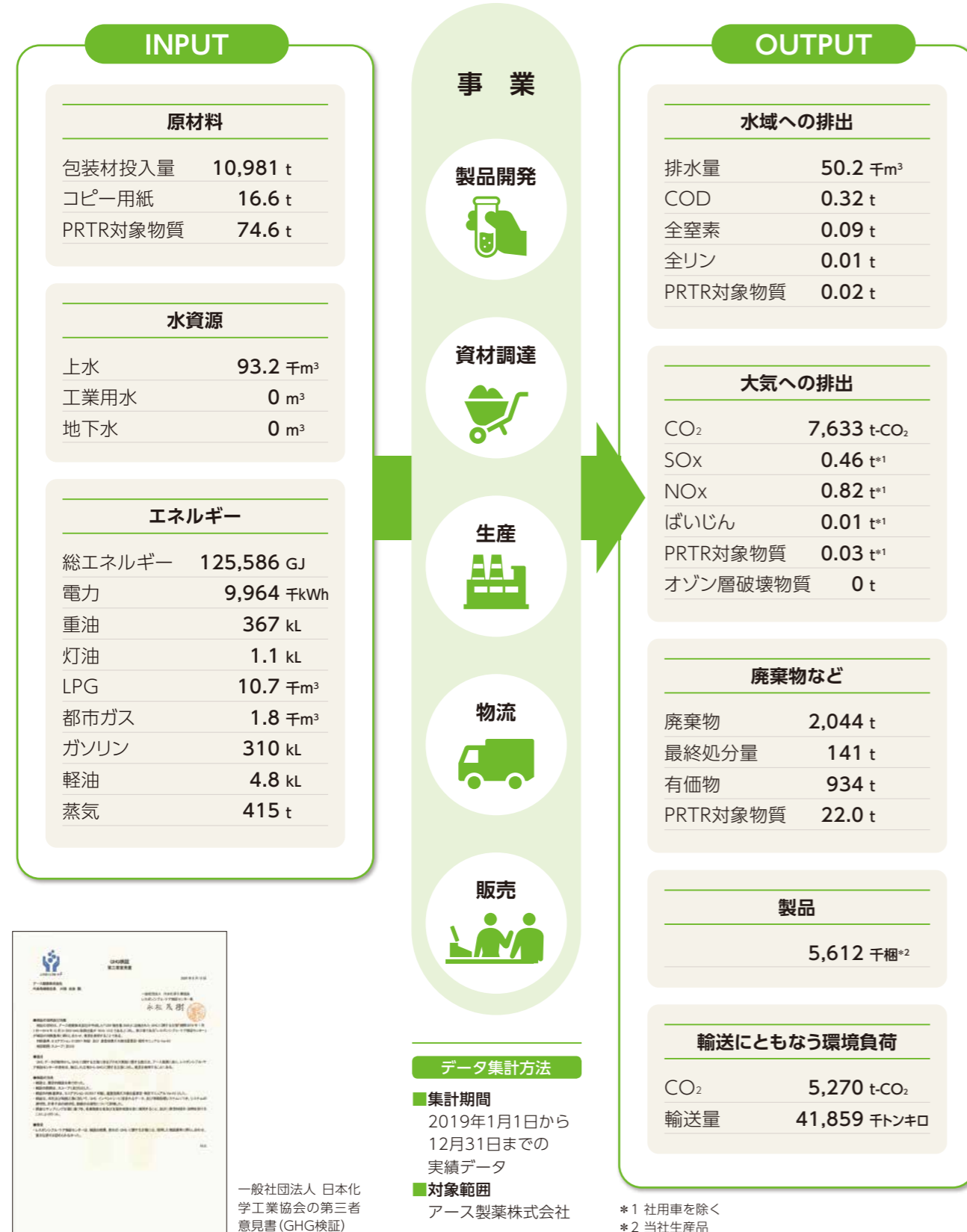
製品の環境負荷低減を意識した製品開発の一環として、美容・健康食品部門においても、世界的な課題のフードロス削減へ貢献すべく、取り組みを実施しています。原材料、製造過程を見直すことにより、「プラセンタゼリー」など6製品で賞味期限を18か月から25か月に延長しました。今後、他製品についても賞味期限の延長に取り組んでいきます。





## 環境負荷の低減

アース製薬では、事業活動における原材料やエネルギーなどの資源（インプット）とその活動で生じる製品や環境負荷（アウトプット）を定量的に把握し、適正に管理するとともに、その低減に取り組んでいます。



## 環境に配慮した製品開発

### 取り組みの背景

アース製薬では、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を意識した、3R「リデュース（減量）、リユース（再利用）、リサイクル（再生）」の視点で製品開発に取り組んでいます。アース製薬のものづくりの源流となる研究開発部門では、お客様の環境に対する意識の高まりを感じ、積極的に環境対応製品の開発に励んでいます。



研究部、環境対応包材プロジェクトチームメンバー

### ● 3Rの視点での製品づくり

#### 1 リデュース（減量）の視点

これまでに「アースレッド」の水容器や、「おすだけコバエアーススプレー」の包装仕様の変更を行うことで、プラスチックの使用量を削減しました。該当する10アイテムの変更前のプラスチック使用量に比べると、約66トンのプラスチック使用量を削減しています。



アースレッド アースレッド水容器 おすだけコバエアーススプレー

#### 2 リユース（再利用）の視点

アース製品の中にはつめかえてボトルを再利用できる製品は27アイテムあります。その中で「アースガーデン おうちの草コロリ」では、使いやすさにこだわって「エアホールドパウチ」を採用しています。アース製薬はつめかえ製品にもこだわりをもって、お客様の使いやすさを追求した製品づくりを行っています。



アースガーデン おうちの草コロリ つめかえ用エアホールドパウチ

#### 3 リサイクル（再生）の視点

「アース虫よけネットEX」は容器に再生プラスチックを使用しています。再生プラスチックを使用している製品は7アイテムあり、年間で約500トンを使用しています。また、紙を使用している製品のうち約85%が再生紙を使用しており、「ごきぶりホイホイ」や「アースノーマット取替えボトル」の小函など158アイテムが該当します。

このように、今後も可能な限り環境に配慮した製品開発に努めていきます。



アース虫よけネットEX 160日用 アースノーマット取替えボトル 60日用 ごきぶりホイホイ+デコボコシート

### 新たな研究開発

研究部では環境対応包材に関するプロジェクトチームを結成し活動しています。日々技術が進歩している環境対応包材の情報を集め、試作品の評価等を実施しています。このチームには、虫ケア、入浴剤、モンダミン、海外製品などさまざまな研究チームのメンバーが集まっており、活発な意見交換や情報共有を行い、新たな製品開発に取り組んでいます。

また、一つの取り組みとして、海洋プラスチックごみの問題解決に向けて官民一体で取り組むべく2019年1月18日に設立されたCLOMA（クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス）にも入会し、プラスチック廃棄物の削減につながる革新的な代替品の導入を図るため、業界の垣根を越えた取り組みに参画しています。

## 社会と共生するために

アース製薬では、社会に有用な価値創造を行うCSV経営を行っています。CSRの推進においても、さまざまなステークホルダーを意識し、社会課題の解決に取り組めます。

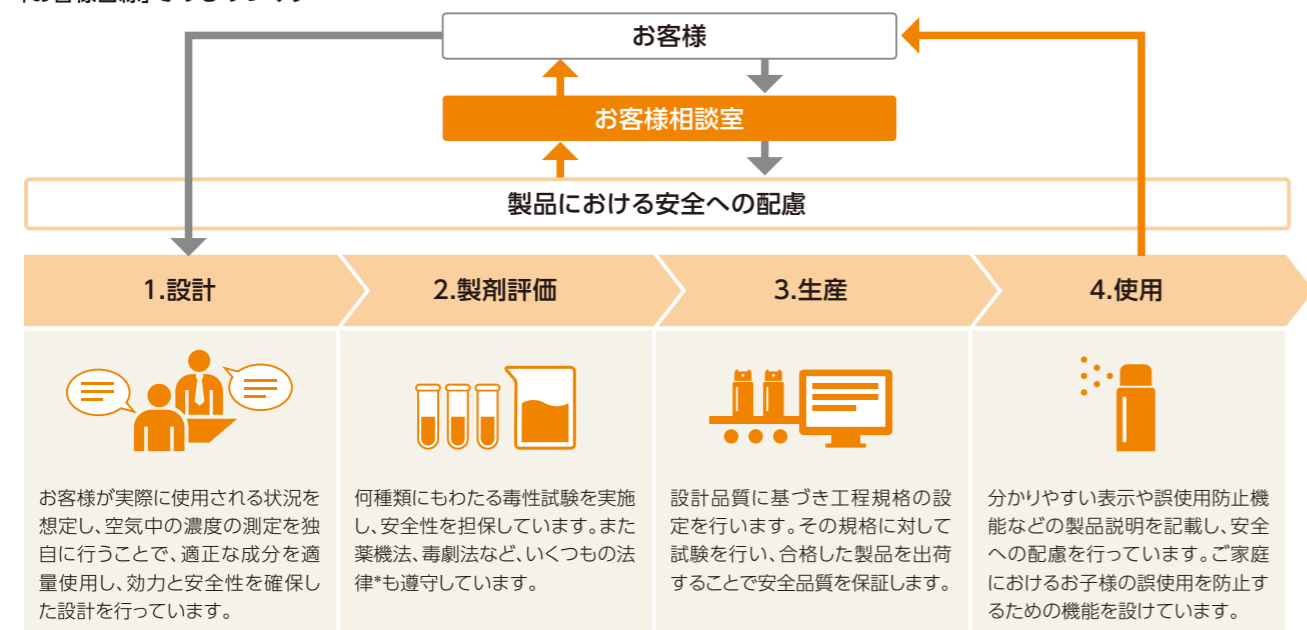


### お客様目線の取り組み

#### 安心・安全への取り組み

アース製薬では、環境負荷の低減や循環型社会の形成に向けて、製品開発、資材調達、生産、物流、販売のバリューチェーン全体で、地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の削減や適正管理などに取り組んでいます。

#### 「お客様目線」でのものづくり



\* 薬機法 (旧薬事法)、毒物及び劇物取締法、化学物質審査規制法、化学物質排出把握管理促進法、高圧ガス保安法など

#### 品質保証

原材料については、医薬品・医薬部外品・化粧品・雑品などの区分けに応じた適切な試験項目と方法に基づいて評価を行っています。製品については、法令に基づいた試験項目およびその製品機能に合わせた試験を実施しており、その中でもお客様が実際に使用される状況を想定した試験項目を設定して評価を行うなど、安心してご使



ごきぶりホイホイ組み立て試験

用いただくための取り組みを行っています。

なお、試験データの改ざん防止など、データの完全性を担保するため、一部の試験機器では、ログイン制限・パスワード設定を行い、監査証跡機能を利用して一連のデータの照査等を行うなど、データの信頼性を確保しています。

試験結果の取り扱いについては、信頼性の向上を目的として成績書の作成・管理を一連で行うシステム(品質管理システム)を新たに導入し、一部運用をはじめ

ました。このような新システムを利用して出荷判定を行う取り組みもはじめています。

また、お客様相談室に寄せられるご意見・ご要望を調査して設計部門にフィードバックすることで製品品質の向上を図っています。

さらに、品質を維持するため、自社工場については、社内外の品質監査をはじめ、QC(品質管理)勉強会や

品質監査報告会などを通し工場と品質保証部門が連携することで、品質向上への取り組みを強化しています。

海外を含めた生産委託先については、定期的に品質監査を実施しており、品質改善を図ることにより緊密な協力体制・信頼関係を築き、お客様目線に基づいた品質確保の考えを共有化して、ものづくりに生かしています。

### 品質改善のために

#### お客様相談室の取り組み

お客様相談室は、お客様相談窓口寄せられるたくさんのご相談やお申し出の一件一件に対して、「迅速」に「公正」に「誠意」をもって応じることにより、お客様のお困りごとを一緒に解決しています。

お客様一人ひとりのお困りごとを解決していきながら、その過程の中で発生する疑問やヒントを社内の関連部署に伝え、新製品の開発と既存品の品質改善に役立てるのもお客様相談室の取り組みの一つです。

#### ● お客様の声を反映する仕組み

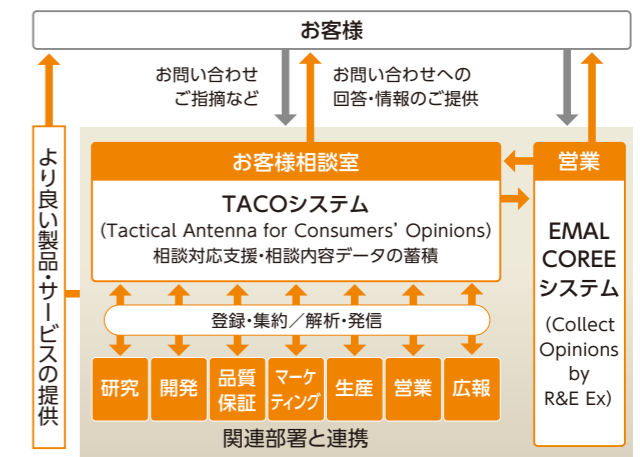
お客様相談室では、製品の改善やお客様の生活向上に役立てるために、日々窓口寄せられるたくさんのご相談やお申し出を社内外に伝えています。そのツールとして、アース製薬独自のお客様対応システム「TACOシステム\*1」を構築、店頭で集まるEMAL\*2経由の情報も洩れることなく「TACOシステム」に集約できるシステム「COREEシステム\*3」も導入しています。

「TACOシステム」に登録・集約されたデータを基に、関連部署にその情報を解析・発信し、「お客様目線」でより良い製品・サービスの提供に役立てています。また、そのデータから、お客様のより良い生活のために役立つ

情報をさまざまなメディアを通じてお知らせします。

お伝えする情報には普遍的なものもあれば、社会の変化に寄り添うべきものもあります。お寄せいただいた情報をもとに、昆虫の触角のように敏感に反応し、対応していきます。

\* 1 Tactical Antenna for Consumers' Opinionsの略で、昆虫の触角機能のような感受度で、お客様の声を蓄積し製品戦略に生かしたいという意味で名づけました。  
\* 2 EMAL: アース・マーチャントデザイン・アクション・レディー  
\* 3 Collect Opinions by R&E Exの略で、R&E部(Retail&EMAL部)が聞いたお客様のご意見を集めたいという意味のシステムです。



#### お客様の声をもとにした製品

##### コロナウイルスに効きますか？

世界的に新型コロナウイルスが感染拡大しており、新型コロナウイルスへの効果への問い合わせを2020年1月より多数頂戴しました。4月に「らくハピ アルコール除菌EX」に同系統のコロナウイルスに効果があることを確認し、さらに6月に同効果を確認した「アレック 部屋まるごと ウイルス・菌 一発クリア」「アレック 集中根こそぎ ウイルス・菌 クリアジェット」を発売しました。



##### アルコールが入っていないものはありますか？

「アルコールが入っていると肌にしみる」「敏感肌なのでアルコールが入っていないものはありますか？」と多くのご意見を頂戴し、アルコールフリーで無添加の「はじめてのサラテクト Premium 0」シリーズを発売しました。



### アース製薬の人材について

アース製薬は「アースバリュー」で「全員参画、コミュニケーション、人がすべて」の3つを唱えているように人材を中心に考えています。価値観の多様化、テクノロジーの進展、日本国内の人口構造の変化、グローバル化など、当社を取り巻く環境が激変している中、私たちの存在意義は新たな価値を生み出していくことだと考えます。そのためには、社員一人ひとりが目標を「見える化」し、向上心を持って業務に取り組むことが必要と考えています。

これらを実現するため、採用、異動により人材を適材適所に配置し、頑張った社員が報われる評価・人事制度を整備することにより、社員のやりがいを引き出します。また、OJTを含む研修制度の構築により、社員それぞれの能力の強化に取り組んでいます。

### 多様な人材の活用

#### ● ダイバーシティの推進

「人がすべて」という社員共通の価値観のもと、働く仲間の人権と多様性、個人の持つ能力や経験を尊重し、お互いを認め合い、助け合い、鍛え合っていく、働きがいのある職場づくりを推進しています。多様性には、出身地、文化、年齢、経験、好み、性的指向などの違いのほか、それぞれのライフステージの違いも含んだものと捉えています。近年は、アジア圏の人材を中心に採用を行うことや、海外現地法人社員をグローバルパートナー(技能実習生)として受け入れ、人材交流を行っています。

#### ● 障がい者雇用の推進

工場、研究所などのバリアフリー化および障がいのある人が使用できる機器を導入し、誰もが働きやすい職場環境をつくることにより、得意な分野において能力を最大限に発揮できるようにしています。赤穂市に所在する坂越工場・赤穂工場では、地元の障がい者施設へ製造業務の一部を委託する「施設外就労」を実施し、障がいのある方たちの「働きたい」を支援しています。また、就労場所の少ない地域に雇用機会を創設するという地方再生の観点から宮崎県に農園を借り、そこで障がいのある方に働く場所を提供



赤穂工場にて

しています。なお、アース製薬における障がい者雇用率は2.3%と法定雇用率を遵守しています。

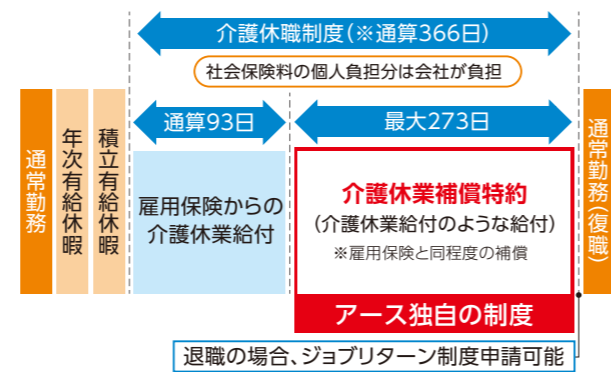
#### ● 海外インターンシップ：ベトナムにおける「ごきぶりホイホイ」のマーケティング戦略

産学の連携、また、グローバルで活躍する人材育成の協力として、近畿大学、帝京大学の学生がEarth Corporation Vietnamを訪れ、ホーチミン市立技術師範大学の学生と共同で「ごきぶりホイホイ」のシェア拡大と市場開拓というミッションに挑みました。販売戦略の立案やベトナム・ホーチミン市での市場調査、アンケート調査を実施し、帰国後は、学生自らが考えた販売戦略を社長へ発表していただきました。今後も世界へ羽ばたく学生を応援する機会や海外での弊社の取り組みを知ってもらうべく、さまざまな活動を続けていきます。

### 働く環境の整備

#### ● ワークライフバランスの推進

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすため、一人ひとりがやりがいを感じながら働き、同時に暮らしを充実させることを目指すべきものだと考えています。アース製薬では、仕事と子育て、介護との両立をする社員が必要な時期に両立を図ることができるよう制度を整えています。介護理由での離職を防ぐために、2019年に休職期間を366日へ拡大し、積立有給休暇や、ジョブリターン制度を新設、2020年には休職中の所得補償のための団体保険に加入し、介護のための制度をより一層充実させました。また、心身の疲労から健康を害さないよう、メンタルヘルス対策として、ストレスチェックの実施、健康管理システムの導入、産業医(精神科医)による面談が受けられる体制を整えています。



アース製薬の介護休職制度のイメージ

### 健康経営の取り組み

2019年にトップメッセージとして「アース健康宣言」を行い、責任者に担当役員を置く「健康経営推進チーム」を組織しました。また、人事部内に「ヘルスケアチーム」を置き、社員の健康管理をフォローしています。この両チームで健診結果を産業医や保健師とともに分析する「データヘルス」、大塚製薬健康保険組合と連携し具体的な施策に取り組む「コラボヘルス」を一層強化し、社員とその家族の心身の健康増進にこれからも取り組んでいきます。



ストレッチセミナーを全国中継で開催

#### アース健康宣言

当社は人々の健康と快適な生活の実現に真摯に向き合い、高品質な製品を提供することで、社会とともに成長を遂げてきました。アースグループがこの先も社員とその家族にとって良い会社であるために、そして社会に必要とされる会社であるために、一人ひとりが心身共に健康であるという認識のもと、皆が明るく活き活きと働くことができるよう、全ての社員の健康の維持・増進に組織全体で取り組むことを宣言します。

代表取締役社長 アースグループCEO 川端 克宜

### 働き方改革の取り組み

2017年から月1回で開始したノー残業デーは、2018年から週1回へと回数を増やし、継続して実施しています。そして、2019年には在宅勤務制度を、トライアル実施による検証を経て正式に導入、さらに時差勤務制度についても、トライアル実施を経て、2020年1月より導入し、東京2020オリンピックのための東京都時差Bizの取り組みにも参加しました。また、業務効率を一層向上させるために、申請書類の電子化にも取り組んでいます。このように、より働きやすい勤務体系の実現を図るとともに、仕事の効率化と会社運営における生産性の向上を推進していきます。



ノー残業デーポスター



時差POP利用例

### 安全衛生への取り組み

健全で安全な職場環境を実現するため、次のような委員会や部会を設置し、活動を実施しています。

- 安全衛生委員会および衛生委員会
- 安全衛生部会
- 安全運転管理活動
- コンプライアンス委員会 (内部通報窓口含む)

### 人材育成

階層別研修	目的別研修
新入社員研修	ハラスメント研修
若手社員研修	ダイバーシティ研修
中堅社員研修	PCスキル研修
管理職研修	英会話研修

#### ● 新入社員研修

新たに社会人となる新入社員に対しビジネスマナーはもちろんのこと、製品講義、営業研修、製造実習など、ものづくりに携わる一連の業務をすべて経験できるカリキュラムを用意しています。知識の習得はもちろんのこと、この研修を通じて「働くとはどういうことなのか」「何のために仕事をするのか」「どうなりたいのか」を考えるきっかけとしてもらいます。



新入社員研修

#### ● 階層別研修

全階層に対応できるような設計を検討し、部長層に対しては「リーダーシップ」、課長層に対しては「コミュニケーション」と「コーチング」の研修を実施しています。部長層および課長層については外部講師を招いて実施しています。これらの外部研修の翌日には社内では役員および所属長より管理者に求められる知識や能力を強化する研修を実施します。さらに係長研修を新たに追加、若手社員の面倒を見られる人材を育成します。若手社員に対しては営業職や赤穂勤務者など一部の社員にフォーカスした研修も実施しています。プレゼン発表などの社内研修やパソコンのスキルアップを目指した外部研修を実施しています。赤穂事業所では職種間の交流をしながら調整力を学ぶ外部研修を実施しました。



赤穂若手社員研修

## 調達における取り組み

アース製薬は、「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」という経営理念を掲げ、これを実現すること自体がCSR(企業の社会的責任)への実践であると考えています。その中において調達活動は、まさに地球との共生なくしては成り立たないものであり、その実現のためには、社会全体の持続可能な発展に貢献することを目的としたCSR調達への取り組みを、お取引先様とともに推進していく必要があると考えています。

2017年にアースCSR調達ガイドラインを掲げてCSR調達に取り組んできましたが、CSRに関する近年の動向や国際社会の要請などに鑑み、2020年8月に同ガイドラインを改定しました。

### 調達方針

アース製薬は、全てのお取引先様に対し公正・公平で倫理的な関係を保ちながら、人権・安全衛生・環境に配慮した購買を行います。

アース製薬は、お取引先様との信頼に基づいたパートナーシップを構築し、相互で持続的に成長しながら、社会との共生を目指します。

#### アースCSR調達ガイドライン

##### ○購買：法令・規範遵守

私たちは、国内外の法令・国際的条約や社会規範を遵守し、企業倫理に基づいた購買を行います。

##### ○購買：製品の安全性・品質

私たちは、製品の安全性と品質を確保するため、要求品質を満たす原材料の購買を行います。

##### ○購買：公正取引

私たちは、全てのお取引先様に対して公平に窓口を開き、公正な購買を行います。

##### ○情報セキュリティ

私たちは、調達活動に関わる秘密情報・個人情報を厳格に管理します。

##### ○CSRへの取り組み

私たちは、お取引先様とともに、人権擁護・労働安全衛生・環境保全への取り組みを推進します。

##### ○得意先との信頼関係

私たちは、お取引先様との信頼関係を構築し、相互の成長を目指した持続可能な取り組みを行います。

### お取引先様への周知活動

お取引先様にアース製薬の調達方針およびCSR調達ガイドラインを理解いただき、アース製薬とともにその内容を実践させていくため、次の活動を進めています。

お取引先様自身のCSR取り組み状況の再認識と継続的な向上のために、CSRセルフ・アセスメント質問表への回答を依頼しています。この活動は2017年より実施し、現在では、お取引先様195社中168社の原材料メーカー・生産委託先から回答を得ています。

これらのご協力をいただいたCSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果を基に、個別面談などでお取引先様と結果を共有し、取り組みが弱い部分(特にサプライチェーン関連)の改善やさらなる向上に努めています。今後も新規のお取引先様へ実施するとともに、この活動を継続していきます。

また、新たに当社内においてのお取引先様への評価を調査しました。この結果を分析するとともに、CSRセルフ・アセスメント質問表の回答・集計結果と合わせ、お取引先様と、調達方針に沿ったCSR調達ガイドラインの徹底と見直すべき課題を話し合っていきます。

#### CSRセルフ・アセスメント質問表 集計結果

項目	得点率分布				
	A(100~80点)	B(60~79点)	C(40~59点)	D(20~39点)	E(0~19点)
コーポレートガバナンス	53%	23%	11%	12%	1%
人権	40%	24%	15%	21%	0%
労働	64%	21%	10%	5%	0%
環境	60%	18%	9%	13%	0%
公正な企業活動	56%	21%	13%	10%	0%
品質・安全性	77%	12%	7%	4%	0%
情報セキュリティ	62%	25%	8%	5%	0%
サプライチェーン	38%	27%	15%	20%	0%
地域社会	55%	21%	12%	12%	0%

## 社外との協働

### 「Re-Style\*」の活動に賛同

#### ● 限りある資源を未来につなぐ Re-Styleパートナー企業認定に調印

アース製薬と(株)バスクリンは2019年より環境省が運営する循環型社会のライフスタイル「Re-Style」活動に賛同し、この活動に参加しています。

循環型社会の構築と実現を目指し、廃棄物削減やつめかえ製品の開発、販売促進、資材調達などバリューチェーンを通した3R(「リデュース(減量)」「リユース(再利用)」「リサイクル(再利用)」)の取り組みを推進していきます。



\*「Re-Style」は、「3R」を取入れた循環型社会のライフスタイルを表す言葉として環境省が提唱。その活動や取り組みの普及・浸透のための情報を発信する環境省ウェブサイトの名称としても使用。

### Re-Style

限りある資源を未来につなぐ。今、僕らにできること。

Re-Styleは「限りある資源を未来につなぐ。今、僕らにできること。」をキーメッセージとして、3Rの取り組みを皆様の暮らしに取り入れてもらうよう提唱したものです。資源を有効的に繰り返し使う社会、「循環型社会」の実現を目指し、ステークホルダーであるパートナー企業の皆様、全ての人々とともに着実に歩みを進めてまいります。

環境省環境再生・資源循環局総務課  
循環型社会推進室長 **平尾 禎秀**

#### ● Re-Style Fes! 2019 出展

環境省主催の「Re-Style Fes! 2019」がイオンスタイル幕張新都心店で開催され、アース製薬と(株)バスクリンは、パートナー企業として参加し、それぞれ環境配慮型商品のブースを出展しました。

また、開会式には川端社長が出席し環境負荷低減に向けた活動と3R視点での商品開発を発表しました。

### レジリエンスジャパン推進協議会への参画

#### ● レジリエンスジャパン推進協議会

アース製薬は、今後起こり得る大規模災害などに対して、人命を守り、国家および社会の重要な機能が致命的な障害を受けず、国民の財産および公共施設の被害を最小化し、迅速な復旧・復興を可能とする、強くてしなやかな国をつくるという、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会の趣旨に賛同し、災害時における事業継続マネジメントに取り組むほか、大規模災害時には被災地へ虫媒介感染症予防や口腔衛生に関連する製品を支援物資として提供するとともに、研究と生産の拠点のある兵庫県赤穂市と災害時避難場所指定と輸送力協定を締結しました。これらの活動が認められ、国土強靱化団体認証(レジリエンス認証)を取得しました。



#### ● 「STOP感染症2020戦略会議」への参画

アース製薬は、海外から多くの人々が訪れ、国際的マスギャザリングとなる東京オリンピック・パラリンピックイヤーを感染症対策の重要年度と位置づけている「STOP感染症2020戦略会議」の活動趣旨に賛同し、虫媒介感染症対策ワーキンググループに参画しています。

感染症を未然に防ぐためのさまざまな方策やソリューションを、政府をはじめ自治体、医療関係者、介護福祉スタッフ、保険関係者の方々に提言するとともに一般市民の方々にも感染症拡大を防ぐための正しい情報を幅広く伝えていくことを目標としています。また、専門家によるソリューション提言を行う「STOP感染症2020戦略会議」を通して、日常においても災害時においても感染症による被害が少しでも少なくなることを目指しています。



企業の立場からさまざまな感染症予防の提言に参画

## 地域との共生

### 社会貢献活動方針

わたしたちは「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を経営理念に、事業を通じて世界の人々に生活の質の向上を提案するとともに、社会貢献活動を積極的に推進し、健康で豊かな社会の実現を目指します。

- アースグループの得意とする「生活」「衛生」を中心とした活動を通して、社会に貢献します。
- 豊かなライフスタイルの実現に向けて、「スポーツ」「文化」「社会福祉」などの活動を支援します。
- 社員一人ひとりが、自ら社会貢献活動に取り組む環境づくりを進めます。

#### ● Japan Mosquito Festival: 「ぶ〜ん蚊祭-もっと知ろう蚊の世界」

2019年6月、日本科学未来館にて日本初の「蚊学入門」イベントが開催されました。本イベントは、蚊を感染症の媒介生物としてばかりでなく、蚊から派生する多面的な世界を「蚊学」と捉え、産学官の専門家のみならず広く一般の人々の関心や興味を深める取り組みです。世界的にも蚊が媒介する感染症は今も多発し、蚊と人間のかかわりを知ることは重要です。アース製薬は、将来の蚊対策、感染症対策のイノベーションにつなげるという主旨に賛同し、「学ぶ」、「遊ぶ」、「闘う」、「探る」の4つのコーナーで「蚊学」の理解・発展に協力しました。



大きな蚊のオブジェ



ヒトスジシマカの成虫・幼虫の観察

#### ● 東京都千代田区と区民の健康な暮らしを守る 連携協定を締結

アース製薬は、千代田区内の小学校への出前授業(害虫対策)や共同清掃活動、介護施設でのボランティア活動を行っています。2020年3月、自治体との安心・安全で健康な地域づくりを官民連携で推進することを目的に千代田区と連携協定を締結しました。高齢者や

子どもへの口腔ケア啓発、夏に向けた虫媒介感染症や熱中症対策、災害時の協力、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた取り組みなど、互いの強みを活かしながら正しい知識を発信し、地元企業として地域住民の健康増進に寄与していきます。



中央左:千代田区長、中央右:川端克宣代表取締役社長

#### ● 地域の小学生との交流

アース製薬は、年に2回「千代田区一斉清掃」で千代田小学校と協働し地域の清掃を実施しています。そのような地域清掃や出前授業などで交流がある千代田小学校二年生の児童を会社見学に招待しました。生活科学習の一環で見学に参加した小学生は、アース製薬の工場のある兵庫県赤穂市とWeb会議でつなぎ、大きなスクリーンにうつる社員と対話したり、オフィス内を回りながら「どうしてアース製薬という名前なのですか？」など真剣な表情で質問をしたりと、社員の回答を熱心にメモしていました。この見学の様子は、後日、小学校の授業で発表されました。



合同清掃



会社見学

#### ● 赤穂における官民連携の防火防災活動

赤穂市内に工場を持つアース製薬は、官民が連携する防火防災活動イベントへ積極的に参加・協力しています。「赤穂市防災フェスタ」は行政が主催する市民への防火防災意識向上のためのイベントで、当社は虫媒介感染症予防についてブースを出展し、虫媒介感染症予防への啓発活動を行っています。また海に面した坂越工場では津波や台風での防災対策として防潮堤が設置されており、この防潮堤の開閉訓練・設備点検は、毎年、兵庫県・赤穂市・地域自治体と協同で実施しています。防潮堤を開閉するための鍵や治具は当社に設置管理しており、有事において速やかに防潮堤の開閉対応ができるよう協力体制を構築しています。



赤穂市  
防災フェスタ



防潮堤の  
開閉訓練・点検

#### ● アース・モンダミンカップ

2012年より日本女子プロゴルフツアー「アース・モンダミンカップ」を主催しています。2020年は、コロナ禍でさまざまなイベントやプロスポーツ大会が中止となる中、「アース・モンダミンカップ」を開催することで、少しでも明るい話題を提供したい、スポーツの力で日本を元気にしたいという思いのもと、開催しました。

アース製薬は、ゴルフ界の発展のため、社会貢献のために、今後もより良い大会の実現を目指し、「記憶に残る、心に残る、歴史に残る」大会を開催していきます。



5年ぶりのツアー  
優勝を果たした  
渡邊 彩香プロ



プレーオフで移動する  
マスク姿の選手たち

#### ● エコキャップ運動

2016年からNPO法人エコキャップ推進委員会が実施する「エコキャップ運動」に参加しています。この活動は提供されたペットボトルキャップを再生プラスチック原料として換金し、医療支援や障がい者支援、子どもたちへの環境教育等、さまざまな社会貢献活動にあてられています。当社からの提供累計個数は108,902個(2020年4月15日現在)であり、今後もエコキャップ運動を続けていきます。



集まった  
ペットボトルキャップ

# Governance

ガバナンス

## 信頼を得るために

株主・投資家、社員をはじめ、あらゆるステークホルダーから信頼され、持続可能な経営を推進するために、透明性を持ったガバナンス、リスクマネジメントを行います。

### コーポレートガバナンス

#### 基本的な考え方

アース製薬は、経営理念「生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」に基づき、お客様にとって価値ある製品・サービスの提供によって市場の創造・活性化を図るため、迅速な経営の意思決定、業務執行の監視・監督、コンプライアンスの徹底、適時・適切な情報開示などを行い、各ステークホルダーから価値ある企業として信頼を得ることに努めています。

#### ● 取締役会の実効性の向上に関する取り組み

経営環境の変化に機動的に対応し、迅速な意思決定と経営における役割と責任の明確化を図るため、取締役の定員数を10名以下（現在は8名）、取締役の任期を1年としているほか、執行役員制度を導入しています。また、監視・監督体制における多様性確保に向けて、外国籍の社外取締役および女性の社外監査役を選任しています。年に一度実施する取締役および監査役による取締役会

の実効性評価では、さらなる実効性の向上に向けて課題抽出および解決に取り組んでいます。評価の概要については、ウェブサイトにて公開しています。

こうした一連の取り組みにより、コーポレートガバナンスの充実を図っています。

なお、当社はコーポレートガバナンス・ガイドライン\*1を制定し、その内容をウェブサイトにて公開しています。

\*1 コーポレートガバナンス・ガイドライン：  
<https://corp.earth.jp/jp/company/governance/pdf/guideline.pdf>

#### 業務の適正を確保する仕組みの強化

アース製薬では、会社法および会社法施行規則に基づき、当社グループの業務の適正を確保するための体制を整備し、その基本方針\*2をウェブサイトにて公開しています。

また、金融商品取引法に準拠した「内部統制報告制度（J-SOX）」に対応するため、内部統制推進委員会を組織し運営しています。

る会議体となっているか検証し、コーポレートガバナンス・コードの求めに近づける取り組みの実践は、今後も継続していただきたいです。

アース製薬は現在、経営推進のための指針の一つをCSVとしています。CSVは事業活動による社会価値創出が、生活者、社会の役に立ち、かつ企業としての利益につながることであり、この考えのもと感染症関連・高齢者介護分野でのビジネスモデルを構築している最中ですが、CSVの実現性を高めるには、ビジネスに最前線で携わる従業員の理解浸透が重要で、経営課題として議論する必要があると考えます。CSR活動の一環として取り組んだ「アースCSR調達ガイドライン」の整備は、公正な取引の確保によるパ

リューチェーンの安定化につながる重要なポイントだったと思います。

事業を通じた社会課題解決は、アース製薬が実行するSDGsへの取り組みに直結するものであり、その意味では、新型コロナウイルスによる困難な状況下で、安全性を担保するための最善のリスクマネジメントを行った上で開催した「アース・モンダミンカップ」は、スポーツ支援の枠を超え、先の事業活動に活かせるものとして、その英断を大いに評価したいです。

アース製薬は、常に環境の変化を意識し、適切に対応するという企業文化を持っているように感じます。今後も社外取締役として、アース製薬の企業文化を尊重し、新しい経営推進のために貢献していきたいと考えます。



#### Message

社外取締役  
メッセージ

社外取締役  
田村 秀行

アース製薬は、2019年に外国籍の社外取締役、女性の社外監査役を選任し、ガバナンス体制におけるダイバーシティ対応を実現しました。取締役会の参加者にも一層の緊張感が生まれ、より意見が多様化し、議論が活発化したように感じています。

年1回の取締役会実効性評価では、独立した第三者の視点から客観的な意見を出しますが、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの利益創出につな

内部統制推進委員会では、評価対象とする業務プロセスおよび範囲を選定し、当プロセスを分析した上で財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別しており、その要点についての整備および運用状況の評価することで、内部統制の有効性に関する評価を行っています。

2019年は評価の結果、当社の財務報告に関わる内部統

制は有効であると判断し、2020年3月に有価証券報告書とともに内部統制報告書を内閣総理大臣に提出しました。

なお、内部統制システムの整備に当たっては、関係法令の制定・改訂の動向にも対応し、継続的な改善を行っています。

\*2 内部統制システムの基本方針：  
[https://corp.earth.jp/jp/company/governance/pdf/ics\\_policy.pdf](https://corp.earth.jp/jp/company/governance/pdf/ics_policy.pdf)

### リスクマネジメント

#### 危機管理の取り組み

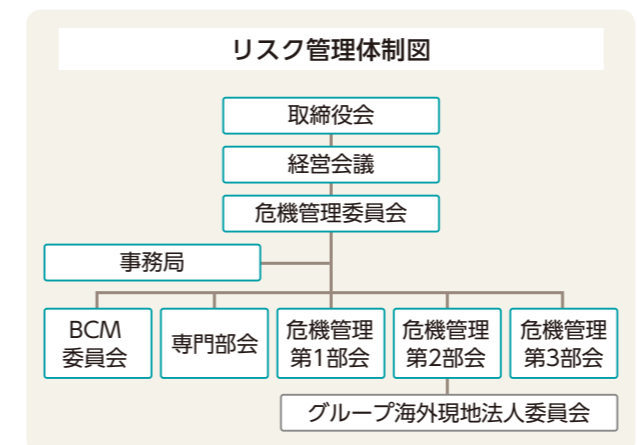
アース製薬は、国内グループ会社も参加した危機管理委員会を年3回開催し、経営危機につながるリスクを未然に防止するための活動をグループ全体で行っています。

また、当社では「危機管理マニュアル」[BCP\*1マニュアル]を策定し、社員への危機意識の浸透を促しています。

現在は策定した事業継続計画（BCP）を機能させるためのマネジメント（BCM\*2）に注力しています。2018年には、内閣官房国土強靭化推進室が策定した「国土強靭化貢献団体の認証に関するガイドライン」に基づく、レジリエンス認証を2018年に取得し、2020年に更新しました。この認証をもとに、本社や研究所、工場などで災害発生時の対策に取り組んでいます。

新型コロナウイルスの流行を受け、全社員テレワーク導入と並行し、体温測定や体調管理を行い、出社社員にはマスク装着を義務づけました。また、社内の環境消毒をBCP対策の一環として実施しました。主に衛生委員と出社した社員が、環境衛生除菌消臭剤「BACT-O（バクト）」を使用してドアノブやコピー機、オフィス内の共有スペースの消毒を行いました。

\*1 BCP：Business Continuity Plan  
\*2 BCM：Business Continuity Management



#### 危機管理基本方針

アース製薬並びにアース製薬社員は、さまざまな経営危機事象発生に伴う「社員の安全」「社会からの信用失墜」「経済的損失」が、経営に重大な支障をきたす可能性を十分に認識し、経営危機事象を未然に防止するために、組織的・体系的な対策を実践します。

また、万が一危機が現実化してしまった場合でも、被害を最小限に留め、当事者・関係者が迅速に判断し行動できるようにするための原則・行動規範として「危機管理基本規程」を明確化・共有化して、対策をここに講じます。

#### 危機管理行動指針

- ①人命の安全確保を最優先します。
- ②企業資産の保全を図ります。
- ③ステークホルダーへの損害を最小限に留め、なおかつ社会的信用を守って企業を存続させるため、事業継続マネジメントを実行します。

#### 情報セキュリティの取り組み

アース製薬は、情報システム部にてISMS統括管理を実施し、「情報セキュリティ基本方針」を制定、情報セキュリティの重要性を周知しています。また、社員に対しては情報漏えいなどの事故につながるリスクを防止するために情報セキュリティ教育を定期的実施しています。毎年、情報セキュリティ管理者、担当の約100名のメンバーとともに各部署にて研修を開催、個人アンケートと情報資産台帳よりリスクアセスメントを実施しています。また、第三者の審査を受けてISO/IEC27001（情報セキュリティマネジメントシステム）の認証を継続取得しています。ISMS委員会では、年間計画の策定、マニュアルの改訂、第三者外部監査機関の審査後評価をもとに改善策を話し合い、新人研修にて、ISMSやスマートデバイスのマニュアルをもとに情報セキュリティの注意点に関する教育を継続的に実施しています。





## コンプライアンス

### コンプライアンス体制

アース製薬は、高い倫理観を持ち、法令などを遵守するため、当社における行動指針を冊子にまとめて解説した「アース製薬行動指針及び行動指針解説書」を役員・社員（契約社員・派遣社員・パートタイム社員を含む）全員に対して配付するとともに、社内イントラネットに掲載して会社が重きを置いていることを周知しています。

また、法務部門を担当する取締役を委員長として、組織横断的なコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス上の課題や情報を共有し、全社的に活動を推進しています。2019年度は委員会を4度開催しました。コンプライアンス委員会では毎月2回、第一法規出版発行のコンプライアンス関連の情報誌「こんぷらサポート便」を社内イントラネットに掲載し、また、他社のコンプライアンス違反事件などの報道後にはコンプライアンス委員会が作成する「コンプラメモ」を掲示して違反の原因と対策を示し、コンプライアンス意識の向上に努めています。「コンプラメモ」は概ね年5回ほど掲示しています。

コンプライアンス委員会では、「コンプライアンス意識調査アンケート」の実施などにより、社内でのコンプライアンス関連情報の適時適切な集約に努めており、社内研修の受講部署選定、研修内容の立案、実施時期の判断にそれら集約された情報を反映させ、研修の実効性を高めています。

### アース製薬行動指針及び行動指針解説書

アース製薬行動指針は、アース製薬の役員・社員一人ひとりが、企業倫理に則った公正な判断をするための尺度を示したものであり、それを実践するためのものです。お客様、社会、市場、株主、働く仲間を5つのテーマとし、それぞれ、「お客様」に対しては、良質で役に立つ製品・サービスを提供することで、常に信頼されるブランドであり続けること、「社会」に対しては、ルールを遵守し、常に公正で誠意ある行動を心がけること、「市場」に対しては、自由な競争を妨げることなく、良質な製品を提供すること、「株主」に対しては正確な情報を迅速に開示するとともに、会社の資産を不正な目的に使用しないこと、「働く仲間」に対してはコミュニケーションを大事にし、全員参画で社会とともに発展し成長することを定めています。また、行動指針解説書においては、行動指針を実践するための遵守すべき法令や事例を記載しています。行動指針を

受け取った時には、役員・社員は誓約書に署名し、コンプライアンス委員会に提出します。なお、本指針の改廃は取締役会の承認を得るものとしています。

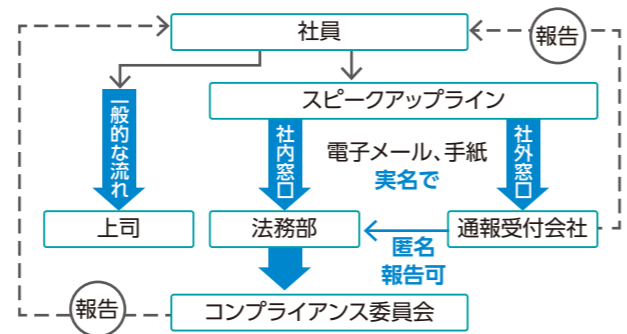
海外子会社については、アース製薬行動指針をもとに作成された「アースグループグローバル行動指針」を通して、現地子会社の自律性や現地の法令に配慮しながら、グループの普遍的経営理念や行動規範の浸透を図っています。

### 内部通報制度概要

アース製薬は、内部通報窓口として「スピークアップライン」を社内と社外の2カ所に設置し、業務に関わる問い合わせやルール違反の恐れがあることをコンプライアンス委員会に通報できる体制をとっています。社外窓口への通報は匿名でも可能です。退職後1年以内の方も利用できます。また、問い合わせや報告をした人が、社内で不利益な処分を受けることがないように保護します。この保護は継続的に実施し、コンプライアンス委員会が監視します。2019年度の通報件数は1件ありました。

このほかにも、契約社員用の「ホットライン」や本社・支店・工場において苦情処理委員を任命し、育児やハラスメントなどの相談に応じる体制をとっています。

#### スピークアップライン体制



### 外部（お取引先様等）通報窓口

ガバナンス機能を強化するため、お取引先様の方から法令および企業倫理（アース製薬行動指針、グローバル行動指針）遵守に関する問い合わせ・通報を、お寄せいただく受付窓口「お取引先専用ホットライン」を設置しています。



内部通報カード

## 第三者意見

### 評価できること

本レポートは「<sup>いのち</sup>生命と暮らしに寄り添い、地球との共生を実現する。」を経営理念とするアース製薬の多角的な活動を、ESG（環境・社会・ガバナンス）の軸にもとづき報告しています。注力するCSRテーマ等について、目標値と実績値を示したCSRマネジメントデータも公開しており、グローバルスタンダードに沿った報告書となっている点も特徴です。

今回のレポートで高く評価したいのは、次の3点です。まず第1に、2021年からスタートする次期中期経営計画とCSRとの関わりが示されたことです。直接的にCSRという用語は使われていませんが、戦略の方向性として、「ESG・オープンイノベーション」が一つの重要な柱として掲げられています。また、トップメッセージを読むと、大学、研究機関、ベンチャー企業、自治体など異分野の持つ知見を組み合わせることによるオープンイノベーションが感染症ケアを含む社会課題の解決につながると述べられています。現在のように、世界中の人々の暮らしが大きく変化し、アース製薬を取り巻く事業環境も変化する中で、持続的に成長するためには、事業ドメインをあらためて広げ、オープンイノベーションに取り組むことが重要です。このような社会課題の解決に向けたアース製薬の誠実な取り組み姿勢を高く評価したいと思います。

第2に、環境面の数値が良化したことです。アース製薬では、事業活動における原材料やエネルギーなどの資源（インプット）と、その活動で生じる製品や環境負荷（アウトプット）を定量的に把握していますが、昨年に比べて、インプット量は増加したにもかかわらず、排水量、CO<sub>2</sub>量、廃棄物などのアウトプットは低減しています。アース製薬は、主にB to C製品を販売する企業ですので、来年は、企業自身が直接的に排出した温室効果ガス（SCOPE 1）や間接的に排出した温室効果ガス（SCOPE 2）に加えて、バリューチェーン全体で排出した温室効果ガス（SCOPE 3）について開示を検討していただくことを期待します。

第3に、社員の働く環境の整備が進んだことです。2019年より介護休職制度を通算366日へと拡大し



立教大学経営学部教授  
高岡 美佳氏

たのに加えて、2020年には雇用保険からの介護休業給付が終了した後も介護休業補償特約が支払われるアース製薬独自の休職中の所得補償制度が導入されました。また、2019年の「アース健康宣言」も記憶に新しいことです。多様な価値観・ライフスタイルを前提とした働き方に関する制度に力を入れていることは大変素晴らしいことだと思います。今後も高いレベルでの運用に努めていただくことを期待します。

その他、海外から多くの人々が訪れる東京オリンピック・パラリンピックイヤーを感染症対策の重要年度と位置付ける「STOP感染症2020戦略会議」の活動趣旨に賛同したり、安全安心で健康な地域づくりを官民連携で推進することを目的とした連携協定を東京・千代田区と締結（2020年3月）するなど、今回のレポートには、この一年間におけるアース製薬のCSRの着実な進捗が示されていると言えるでしょう。今後もアース製薬らしさを追求しつつ、社会の課題を見つけ出し、アジアにおけるリーディングカンパニーとして業界を牽引していただきたいと思います。

### 要望したいこと

現時点でアース製薬のCSRは一定のレベルに達していると思いますので、来年は、人権方針の策定について検討されてはいかがでしょうか。アース製薬が積極的に事業を展開する海外では、2015年に英国現代奴隷法が施行されるなど人権に対する関心が高まっています。自社の事業活動において影響を受ける人々の人権を侵害しないこと、マイナス影響の回避・緩和のために人権デューデリジェンスを実施すること、そしてマイナスの影響が生じた場合には是正に向けて適切な対応をとることは企業の社会的責任にとって欠かせない要素です。

# 会社概要、基本データ

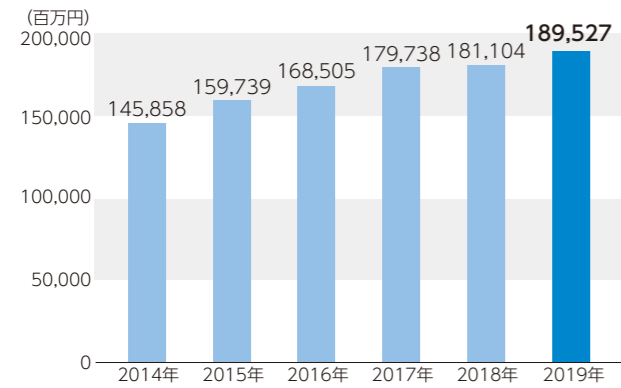
## 会社概要

**名称** アース製薬株式会社  
 東京証券取引所市場第一部  
**会社設立** 1925年(大正14年)8月26日  
**資本金** 84億5,160万円(2020年9月末現在)  
**本社所在地** 〒101-0048  
 東京都千代田区神田司町二丁目12番地1  
**代表者** 代表取締役社長 川端 克宜  
**事業内容** 医薬品、医薬部外品、医療用具、家庭用品などの製造販売並びに輸出入

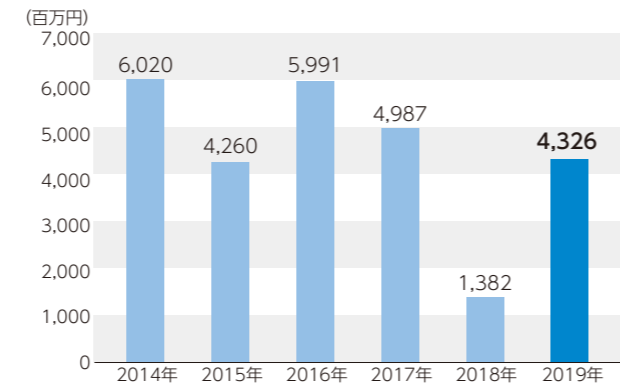


## 財務データ

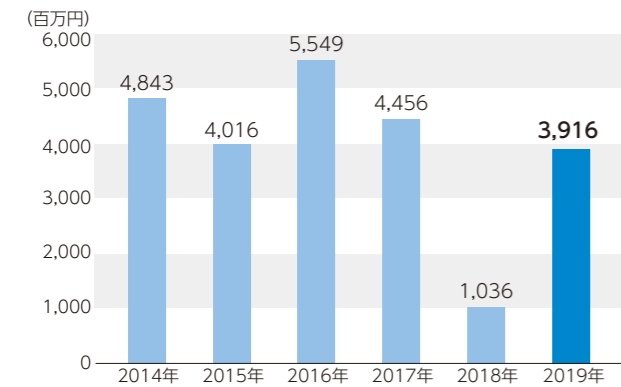
### ● 売上高(連結)



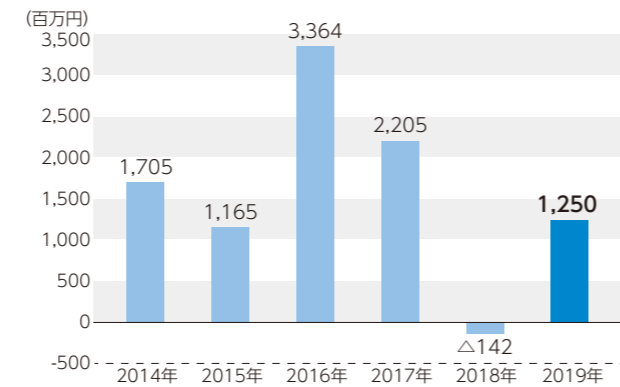
### ● 経常利益(連結)



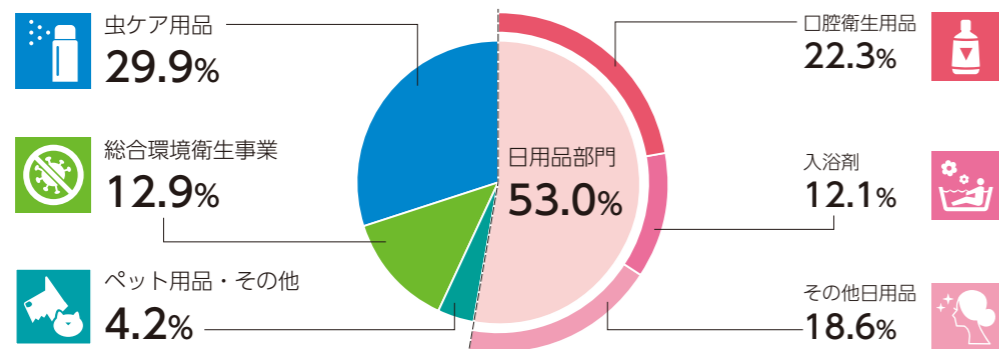
### ● 営業利益(連結)



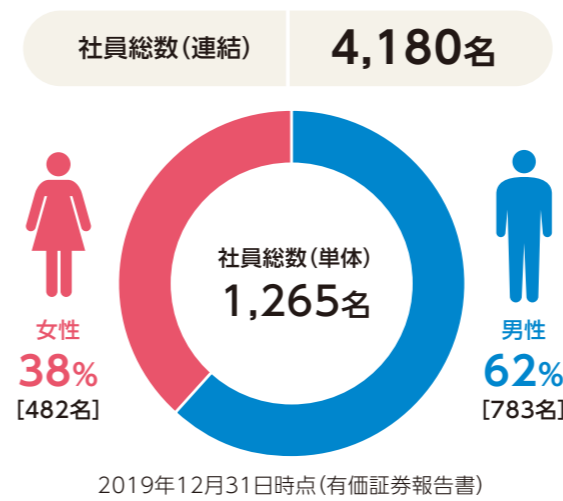
### ● 親会社株主に帰属する当期純利益(連結)



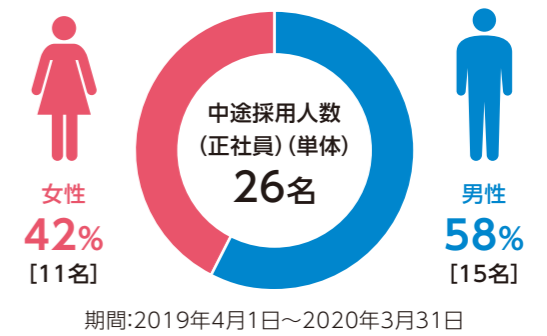
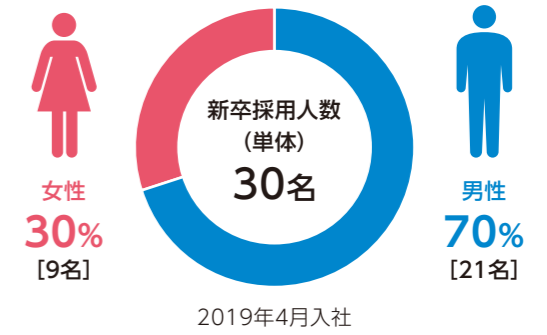
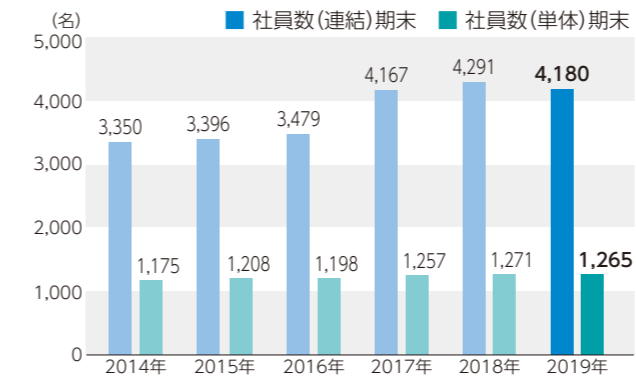
### ● セグメント別売上高構成(2019年)



## 非財務データ



### ● 社員数



### ● 初任給(単体) 2019年実績

大卒 **210,000円** / 修士 **230,000円**

## 編集方針

アース製薬は、さまざまなステークホルダーの立場や考え方を尊重し、積極的に対話を行いながらCSR活動を推進することが重要だと考えています。ステークホルダーの皆様とより深いコミュニケーションを取ることでアース製薬の存在意義を明確化することを目指し、日本語版と英語版のCSR報告書を発行し、冊子とウェブサイトにて公開しています。

本冊子では、2017年に設定した注力するテーマとESGの項目に関する取り組みの進捗と実績を報告するとともに、海外事業やグループ会社のデータの収集と開示を強化し、冊子・ウェブサイトに反映しています。ハイライトも注力するCSRテーマに沿った内容としています。

この「CSR報告書2020」を通じて、アース製薬ならではのCSR活動を、多くのステークホルダーの皆様にご理解いただき、皆様とともに未来を築いていきたいと考えています。

- **対象範囲**  
アース製薬株式会社  
(報告範囲はグループ全体ですが、標記のあるデータ以外はアース製薬単体です)
- **対象期間**  
2019年1月1日~2019年12月31日  
(一部の内容は2020年3月31日まで)
- **発行時期**  
2020年10月
- **参考にしたガイドラインなど**  
[GRIサステナビリティ・レポートング・スタンダード(GRIスタンダード)]  
環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」  
[Business Reporting on the SDGs: An Analysis of the Goals and Targets]  
[Integrating the SDGs into Corporate Reporting: A Practical Guide]
- **お問い合わせ先**  
アース製薬株式会社 グループ経営統括本部  
事業開発部内 CSR推進事務局  
TEL : 03-5207-7788  
FAX : 03-5207-7484